SHARP®

AQUOS オーディオ

取扱説明書

シアターラックシステム

形　名

エイ　エヌ　　エイ アール
AN-AR310

はじめに

設置・接続・準備

音を楽しむ

困ったときは

情報ページ

DOLBY
DIGITAL
VIRTUAL SPEAKER
PRO LOGIC II

お買いあげいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- ご使用前に、「安全上のご注意」（4～8ページ）を必ずお読みください。
- この取扱説明書は、保証書とともに、いつでも見ることができるところに必ず保存してください。
- 製造番号は品質管理上重要なものですから、商品本体に表示されている製造番号と、保証書に記入されている製造番号とが一致しているか、お確かめください。
- ファミリンク機能をお使いになる場合は、かんたんガイドもご参照ください。

もくじ

はじめに

初めて使うときは必ずお読みください。

設置・接続・準備

操作を始める前に必要な内容です。

音を楽しむ

基本的な再生操作と音の調整です。

困ったときは

本機を使用していて困ったときに調べていただくページです。

情報ページ

仕様などの情報のページです。

本書で使われているマークについて

正しくお使いいただくためのご注意です。

もう少し詳しい説明や、機能の制限事項です。

付属品

付属品をご確認ください。

リモコン×1

使いかた→13ページ

単3乾電池×2
（リモコン用）

使いかた→21ページ

キャスター受皿×2
（前側のみ）

使いかた→14ページ

テレビ転倒防止用部品

固定用ネジ×2　ワッシャー×2

使いかた→15ページ

光デジタル音声ケーブル×１
（約1.5m）

使いかた→16～18ページ

HDMIケーブル×１
（約2.0m）

使いかた→16・18ページ

取扱説明書（本書）×１ ※
かんたん!!ガイド×１ ※
保証書×１

※当商品は日本国内向けであり、日本語以外の説明書はございません。
This model is designed exclusively for Japan, with manuals in Japanese only.

キャスター受皿は取り付けが必要です。 取り付けかた→14ページ

商標などについて

HDMI、HDMI ロゴおよび高品位マルチメディアインターフェイスは、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、ダブル D 記号およびAACロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS のライセンス契約に基づき、製造されています。
以下が米国パテントナンバーです。

5,451,942　5,956,674　5,974,380
5,978,762　6,487,535

その他の米国内、その他の国におけるライセンス
(出願中含む)

DTS および DTS Digital Surround は登録商標です。
DTS ロゴ および シンボルは、DTS, Inc. の商標です。
DTS, Inc.(C) 1996-2008 DTS, Inc. 版権所有。

AAC は正式名称を MPEG-2 Advanced Audio Coding といい、MPEG-2 仕様の一部として標準化された音声圧縮技術です。
以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950　5 297 236　5,481,614　5,490,170
5848391　4,914,701　5,592,584　5,264,846
5,291,557　5,235,671　5,781,888　5,268,685
5,451,954　07/640,550　08/039,478　5,375,189
5 400 433　5,579,430　08/211,547　5,581,654
5,222,189　08/678,666　5,703,999　05-183,988
5,357,594　98/03037　08/557,046　5,548,574
5 752 225　97/02875　08/894,844　08/506,729
5,394,473　97/02874　5,299,238　08/576,495
5,583,962　98/03036　5,299,239　5,717,821
5,274,740　5,227,788　5,299,240　08/392,756
5,633,981　5,285,498　5,197,087

安全上のご注意

ご使用前に**「安全上のご注意」**を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。
内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

 警告 人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

 注意 人がけがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

図記号の意味
（図記号の一例です）

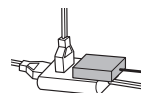
 記号は、気をつける必要があることを表しています。

 記号は、してはいけないことを表しています。

 記号は、しなければならないことを表しています。

⚠ 警告

交流100ボルト以外の電圧で使用しない

100ボルト以外禁止

火災・感電の原因となります。

国外では使用できません

禁止

この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では電源電圧が異なりますので使用できません。
(This unit is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.)

電源プラグは確実に差し込む

確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ホコリが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

タコ足配線をしない

禁止

火災・感電の原因となることがあります。

電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったり、加熱したり、加工したり、重い物を載せたり、この製品の下敷きにしない

禁止

電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷ついたときは、販売店に交換をご依頼ください。

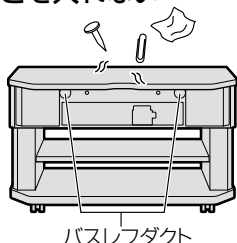
雷が鳴りだしたら、製品に触れない

接触禁止

感電の原因となります。

⚠ 警告

開口部(バスレフダクトなど)から金属類や燃えやすい物などを入れない

禁止

火災・感電・けがの原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

風呂やシャワー室では使用しない

風呂、シャワー室での使用禁止

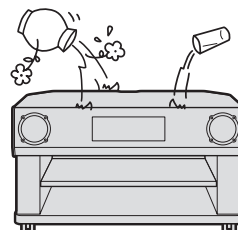
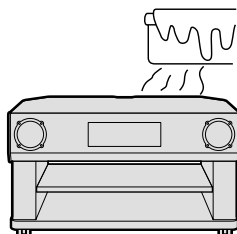
火災・感電の原因となります。

キャビネットを開けたり、改造しない

分解禁止

火災・感電・けがの原因となります。
内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。

本機の上に花びんなど、水の入った容器を置かない

水ぬれ禁止

水がこぼれるなどして中に入ると、火災・感電の原因となります。

内部に水や異物などが入ったときは、電源を切り、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店にご連絡ください。

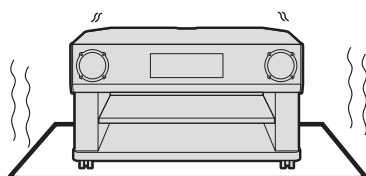
煙やにおい、音などの異常が発生したら、本機の電源を切り、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

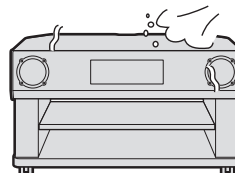
異常な状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。修理を販売店に依頼してください。お客様自身による修理は絶対におやめください。

⚠ 注意

不安定な場所に置かない

禁止

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

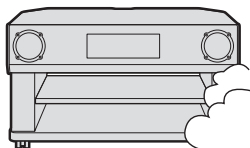
冷気が直接吹きつける所や、極端に寒い場所に置かない

禁止

露がつき、漏電・焼損の原因となることがあります。

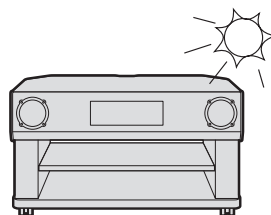
安全上のご注意(つづき)

⚠ 注意

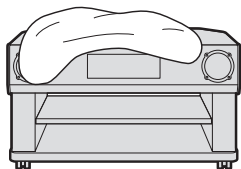
湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気が当たるようなところに置かない

禁止

調理器具や加湿器などのそばに置くと、火災·事故の原因となることがあります。

直射日光が長時間あたる場所や、暖房器具の近く、火気の近くには置かない

禁止

火災·事故の原因となることがあります。

風通しの悪いところで使用しない また、じゅうたんや布団などをかけない

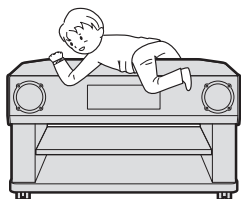
禁止

放熱孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

大音量で再生中に万一異音が出た場合は、音量レベルを下げてください

音量を下げる

そのまま使用すると、スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
また、電源を切る前には、アンプの音量を必ず最小にしてください。
電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

製品の上に乗らない

禁止

踏み台や腰かけのかわりに使わないでください。
倒れたりこわれたりして、けがの原因となることがあります。
特にお子様やペットにはご注意ください。

電源コードを熱器具に近づけない

禁止

電源コードの被覆がとけて、火災·感電の原因となることがあります。

本機は非常に重いので、持ち運びは必ず2人以上で行ってください

指示

腰を痛めたり、けがの原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

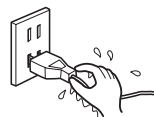
電源コードが傷つき、火災·感電の原因となることがあります。

お手入れのときや長期間使用しないときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

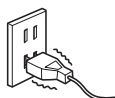
感電やけがの原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

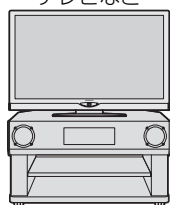
ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

⚠ 注意

電源プラグはゆるみのあるコンセントに接続しない

禁止

火災・感電の原因となることがあります。

他の機器を接続するときは、指定のケーブルをお使いください

指定のケーブルを使用

接続するときは、必ず電源を切り、他の機器の取扱説明書をよくご覧のうえ、説明に従って接続してください。
また、付属のケーブルや指定以外のケーブルを使用すると、故障の原因となります。

移動するときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続線など外部の接続ケーブル、転倒防止具をはずし、テレビやDVDプレーヤーなど設置している機器を降ろしたことを確認のうえ、行ってください

電源プラグを抜く

電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
また、落下や転倒など思わぬ事故の原因となることがあります。

据えつけたあと、不意の地震や衝撃等により、この製品の上に載せたテレビなどが倒れてけがをするおそれがあります。テレビなどの転倒防止策を実施ください

転倒防止

安全上のご注意（つづき）

リモコンの乾電池についての安全上のご注意
液もれ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

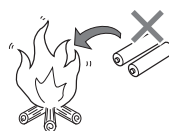
⚠ 注意

乾電池は幼児の手の届く所に置かない

禁止

乾電池は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。
飲み込んだおそれがあるときは、ただちに医師と相談してください。

乾電池は火や水の中に投入したり加熱・分解・改造・ショートしない
また、乾電池は充電しない

禁止

乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池の液がもれたときは素手で触らない

禁止

- 乾電池の液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。

指定以外の乾電池を使わない
新しい乾電池と古い乾電池または種類の違う乾電池を混ぜて使わない

禁止

乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池を使いきったときや、長時間使わないときは、乾電池を取り出す

指示

乾電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池はプラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

表示どおりに入れる

間違えると乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池を水に濡らさない
ハンダ付けしない
金属小物（かぎ・装飾品・ネックレス・コイン等）といっしょにポケットやかばんなどに入れない

禁止

- この製品は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店またはシャープお客様相談センターまで、ご連絡ください。
- お客様もしくは第三者がこの製品の使用を誤ったことにより生じた故障、不具合、またはそれらに基づく損害については、法令上の責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

ご使用上の注意

■ 長期間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

■ 本機は、5℃～ 35℃の場所でお使いください。

■ 使用中は、内部から発生する熱により、本機背面のアンプ部が熱くなります。
長時間触れていると、やけどの原因となることがあります。

■ パソコンなどの機器の近くで使用すると、それらの機器や本機に雑音が入ることがあります。
そのときは、それらの機器の電源を切るか、本機との距離をできるだけ離してください。

■ 本機の近くでラジオ受信機やトランシーバー、防災無線機などの無線機器を使用すると、それらの機器や本機に雑音が入ることがあります。また、誤動作することがあります。
そのときは、本機との距離をできるだけ離してください。

■ 防磁対応について

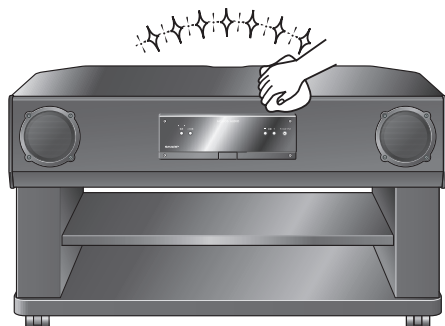
スピーカーは、防磁対応されています。
ただし、使うテレビ（ブラウン管）によっては、テレビ画面に色ムラが生じることがあります。

テレビ画面に色ムラがおきたら…
いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再び電源を入れてください。

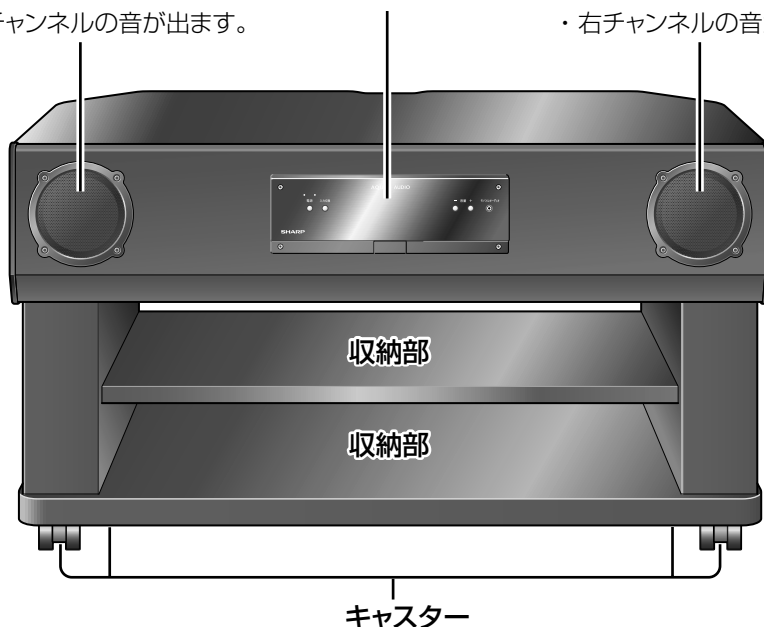
それでも色ムラが残るときは…
テレビの位置を少し変えてみてください。
近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビ画面に色ムラが生じることがありますので、設置にご注意ください。

・色ムラが消えない場合は、テレビの点検が必要な場合もあります。

お手入れのしかた

- 汚れは柔らかい布（綿、ネル等）で軽くふき取ってください。
  化学雑布（シートタイプのウェット･ドライのものも含め）をご使用になられますと、本体キャビネットの成分が変質したり、ひび割れなどの原因となる場合があります。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤にひたした柔らかい布（綿、ネル等）をよく絞って拭き取り、柔らかい乾いた布で仕上げてください。

・ベンジンやシンナー、アルコールなどの化学薬品は使わないでください。また、殺虫剤などの揮発性のあるものをかけないでください。
表面の仕上げをいためたり、変色の原因となることがあります。

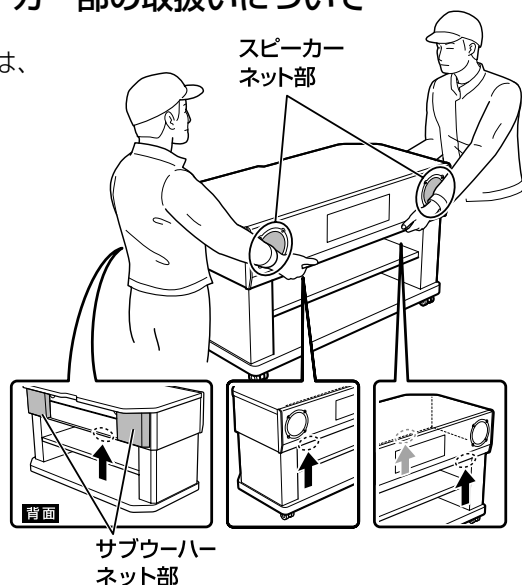
各部のなまえとはたらき

正　面

・前側×2、後側×2

キャスター受皿の取り付けが必要です。

取り付けかた→14ページ

持ち運び時の注意およびスピーカー部の取扱いについて

製品を移動するときや設置するときは、
必ず２人以上で行ってください。

スピーカー
ネット部

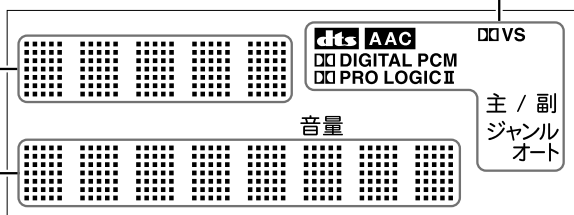
背面

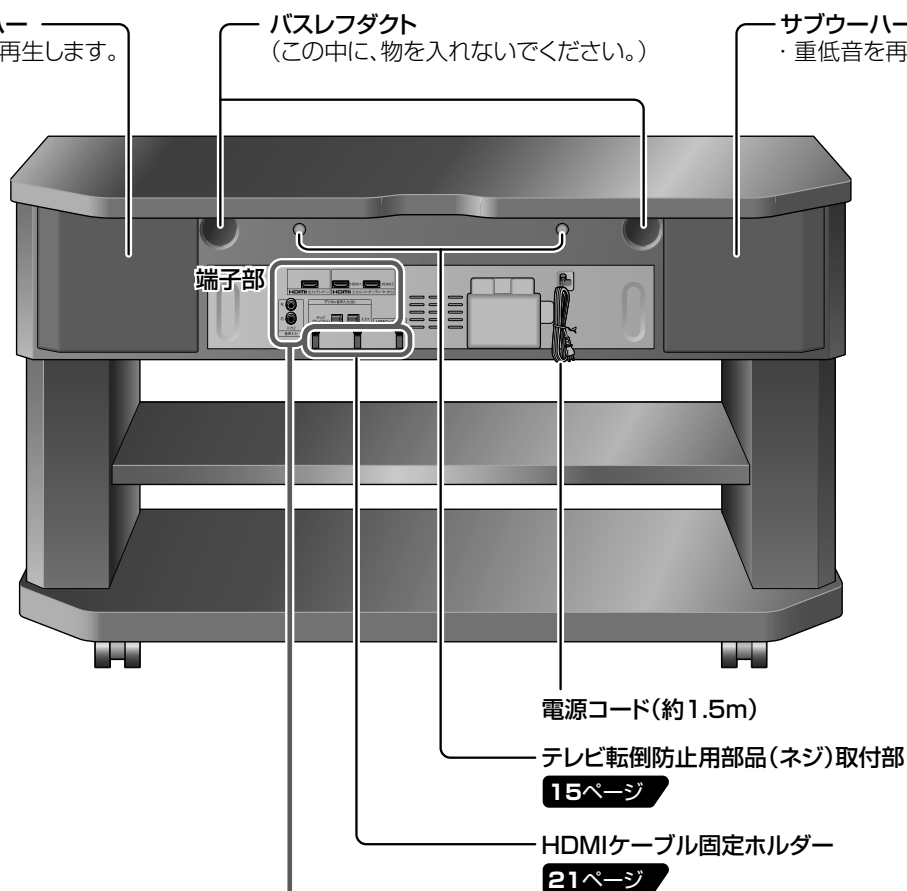
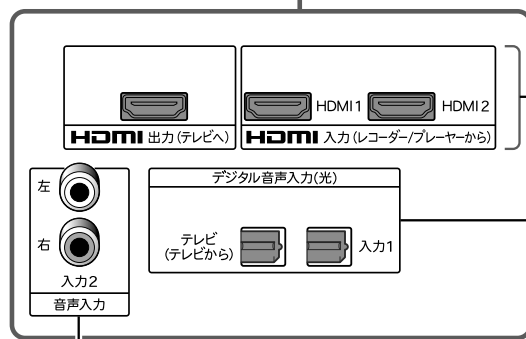
サブウーハー
ネット部

ご注意

- 製品を移動するときや設置するときは、前面のスピーカーネット部および背面のサブウーハーネット部を強く押したり触らないようにしてください。スピーカーネットやスピーカーの破損の原因となります。
  天板部の下板側の↑マークの部分を持ってください。
- サブウーハーは破損しやすいので、お取り扱いにご注意ください。

操作部

電源ボタン 22～23ページ
・電源を入／切(待機)します。
電源表示ランプ 22～23ページ
・緑色点灯(動作状態)
・赤色点灯(待機状態)
モバイルオーディオ端子 20ページ
・携帯電話やデジタルオーディオプレーヤーなどのモバイルオーディオ機器を接続します。
リモコン受信部 22ページ
・リモコンをここに向けて操作してください。
AQUOS AUDIO
電源
入力切換
－ 音量 ＋
モバイルオーディオ
SHARP
入力切換ボタン 23ページ
・聞きたい機器の入力を切り換えるときに押します。押すたびに次の順に切り換わります。
HDMI1(入力)
HDMI2(入力)
テレビ
入力1
デジタル音声入力
モバイル
入力2
音声入力(アナログ)
音量(＋／－)ボタン 23～24ページ
・音量を調整します。
ソフトウェア更新専用SDカード挿入口 47ページ
・ソフトウェアの更新をするときのみに使用します。ゴミやほこりの進入を防ぐためにカバーがついています。
本機では、SDカードを使って音声や音楽を楽しむことはできません。
表示部
入力切換や音量調整、サウンドモード、サブウーハーおよびセンターのレベル調整、消音モードなど本機の設定を表示します。
表示部(上段)(入力表示) 23ページ
・本体の現在の入力を表示します。
dts AAC
DD DIGITAL PCM
DD PRO LOGICⅡ
DDVS
主 / 副
ジャンル
オート
音量
表示部(下段)(音量／サウンドモード) 24～27ページ
・サウンドモードや音量、サブウーハーレベル、センターレベル、ドルビーバーチャルスピーカーなど、各設定の内容が表示されます。
入力信号や設定内容にあわせて点灯します。
・入力した信号にあわせて点灯します。 28ページ
dts、AAC、DD DIGITAL、PCM
・ドルビープロロジックⅡ動作時に点灯します。 27･28ページ
DD PRO LOGICⅡ
・ドルビーバーチャルスピーカー使用時に点灯します。 27ページ
DDVS
・音声多重放送の音声モードの設定内容が表示されます。 25･37ページ
主、副、主/副
・ジャンル連動の使用時に点灯します。 30ページ
ジャンル
オート

各部のなまえとはたらき（つづき）

背　面

端子部

HDMI入力／出力 16・18ページ

HDMI入力（レコーダー／プレーヤーから）
HDMI1、HDMI2端子

・HDMI出力端子のあるレコーダーやプレーヤーなどの機器と接続します。

HDMI出力（テレビへ）端子

・HDMI入力端子のあるテレビと接続します。

デジタル音声入力（光） 16～18ページ

テレビ、入力1端子

・光デジタル出力端子のあるテレビやレコーダーなどの機器と接続します。

音声入力 17ページ

入力2端子

・音声出力端子のあるテレビやCDプレーヤー、カセットデッキなどの機器と接続します。

リモコン

電源ボタン 22ページ

・電源を入/切(待機)します。

音声切換ボタン 25ページ

・音声多重放送の音声信号(主音声/副音声)を切り換えるときに押します。

入力切換ボタン 23ページ

・聞きたい機器の入力に切り換えるときに押します。

サウンドモードボタン 26ページ

・サウンドモードを切り換えるときに押します。

メニュー選択ボタン 25・33ページ

・メニューを選ぶときに押します。

メニューボタン 25・33ページ

・メニューを表示するときに押します。

決定ボタン 25・33ページ

・メニューを決定するときに押します。

スピーカー設定/スピーカーレベル調整ボタン 25ページ

・サブウーハーおよびセンターの音量レベルの調整をするときに押します。

音量ボタン 23・24ページ

・音量を調整するときに押します。

消音ボタン 24ページ

・音を一時的に消すときに押します。

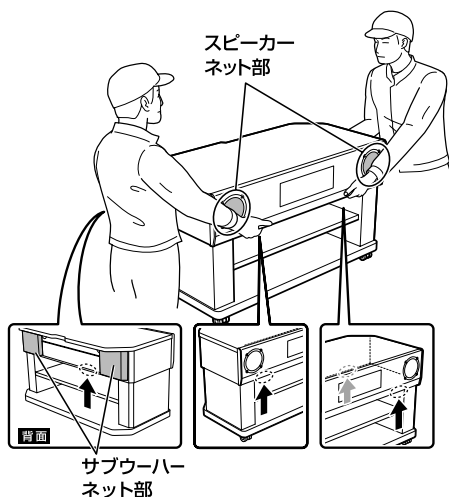
ドルビーバーチャルスピーカーボタン 27ページ

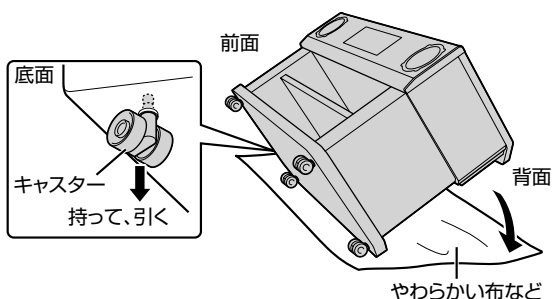
・ドルビーバーチャルスピーカー機能のモードの確認および切り換えをするときに押します。

本機やテレビなどを設置する

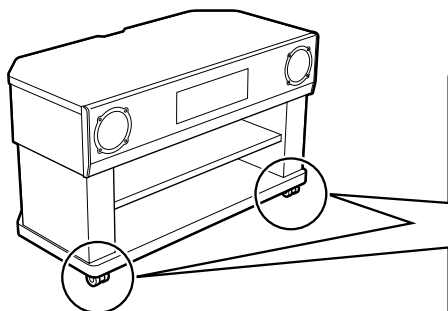
設置する前に

ご注意

- 安全のために、手袋を着用してください。
- 本機は非常に重いので、持ち運びなどの作業は必ず2人以上で行ってください。腰を痛めたり、けがの原因となることがあります。
- 底面には、キャスターが装備されていますので移動可能ですが、床などにキズがつく恐れがありますので、十分気をつけてください。
  また、凹凸や段差のある場所を乗り越さないでください。
- 製品を移動するときや設置するときは、前面のスピーカーネット部および背面のサブウーハーネット部を強く押したり、触らないようにしてください。
  スピーカーネットやスピーカーの破損の原因となります。
  天板部の下板側の⬆マークの部分を持ってください。
- 本機をぐらついた台の上や不安定な場所に置かないでください。
  落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 本機の上にテレビやその他の機器を載せたまま移動しないでください。
  落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

キャスターの取り外し方

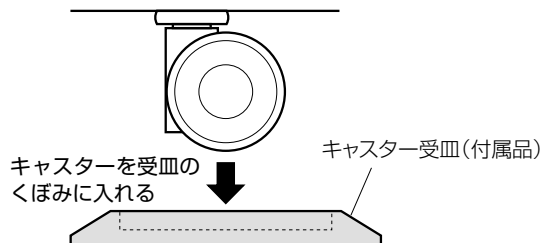
- 毛足の長いじゅうたんや畳など不安定な場所に設置する場合は、キャスターを取り外すことができます。
- 作業は、必ず２人以上で行ってください。
- キャスターを取り外す場合は、床にやわらかい布などを敷き、背面側に倒して行ってください。
- キャスターを持って引くと外れます。
- 再度取り付ける場合は確実に差し込んでください。

①本機を部屋に設置する

- テレビやレコーダーなどを設置したり、接続したりするときの作業スペースを確保のうえ、本機を設置してください。

ご注意

- 指をはさまないように、気をつけて作業を行ってください。

お知らせ

本機を部屋のコーナーや壁に寄せて設置する場合には、あらかじめ以下の作業を行ってください。

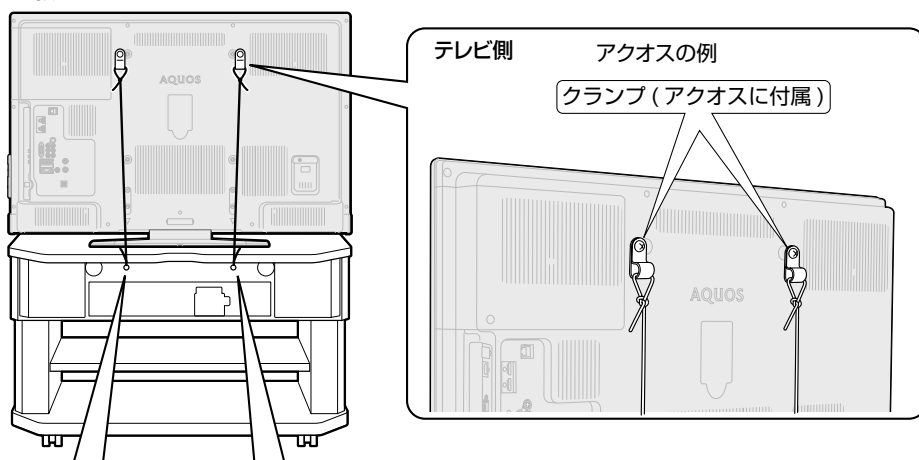
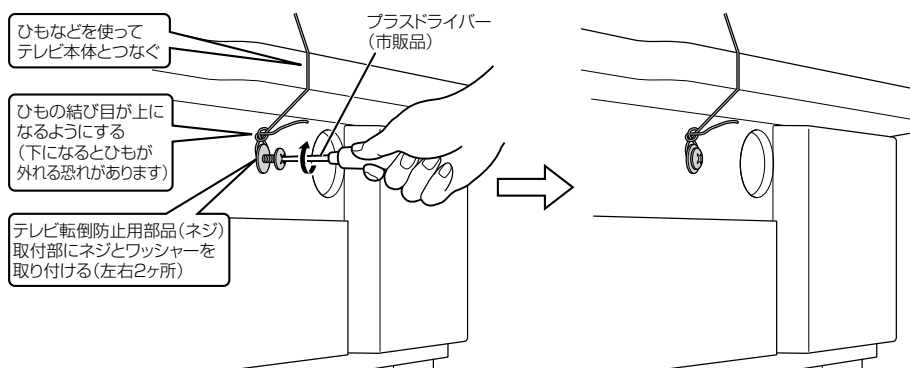
1. テレビやレコーダーなどと接続するケーブル類を本機に接続しておいてください。
2. テレビやレコーダーなどを設置するために必要なケーブル類や転倒防止用のひもなどを配置しておいてください。
   本機や接続した機器の電源コードやケーブル類を壁などに挟み込まないようにご注意ください。

②テレビやレコーダーなどを設置する

- テレビは本機の中央に載せてください。
  天板耐荷重：約60kg
  棚板耐荷量：上段：約15kg
  下段：約20kg

安全のためテレビの転倒防止策の実施をお願いします。

テレビの転倒防止策の一例

⚠ 注意

- 不意の地震のときや、お子様がテレビや本機に登ったり、ぶらさがったり、揺すったりすると、倒れてけがをする恐れがあります。
- 安心してご使用いただくために、ご使用のテレビの取扱説明書も合わせてご覧のうえ、転倒防止策の実施をお願いします。

本機側　本機背面にテレビ転倒防止用部品（ネジ）取付部が左右２ヶ所あります。
この取付部に付属のネジとワッシャーを取り付け、市販の丈夫なひもなどを使って、テレビ本体とつないでください。

- この転倒防止策は一例で、テレビを前方向に倒れにくくするものです。
  後方向に対しては効果がありません。

HDMI端子のある機器(テレビやレコーダーなど)を接続する

- **接続するときは、それぞれの機器の電源コードを抜いてから行ってください。**

使うケーブル

HDMIケーブルについて

- 市販品のHDMIケーブルをお使いになるときは、より安定した動作や画質劣化などの防止のため、約1～2mのHDMI認証品ケーブルをお使いください。
- HDMI ケーブルは奥まで差し込み、引っ張らないようにしてください。コネクターが端子から抜けると、本機が正常に動作しなくなりますので、ケーブル固定ホルダーにて固定してください。(**21**ページ)

テレビとの接続

テレビ

デジタル音声出力(光)

HDMI入力

デジタル音声出力(光)端子へ

HDMI入力端子へ

光デジタル音声ケーブル

HDMI ケーブル

両方とも接続

HDMI 出力(テレビへ)端子へ

本機でテレビの音声を聞く場合は、光デジタル音声ケーブルをつないでください。HDMIケーブルの接続だけでは、本機でテレビの音声を聞くことはできません。

デジタル音声入力(テレビ)端子へ

レコーダーなどとの接続

1台目：ブルーレイディスクレコーダー／ハイビジョンレコーダーなど

HDMI ケーブル

HDMI 出力端子へ

2台目：ブルーレイディスクレコーダー／ハイビジョンレコーダーなど

HDMI 1 入力端子へ

HDMI ケーブル

HDMI 出力端子へ

HDMI 2 入力端子へ

背面(端子部)

HDMI 出力(テレビへ)

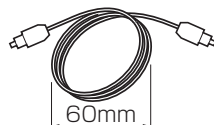
HDMI1 HDMI2 HDMI 入力(レコーダー/プレーヤーから)

左 右 入力2 音声入力

デジタル音声入力(光) テレビ(テレビから) 入力1

"カチッ"と音がするまで差し込む

- 光デジタル音声ケーブルは、曲げすぎると破損します。直径60mm以下には曲げないでください。

- ファミリンク対応の当社製アクオスやハイビジョンレコーダーなどを接続した場合は、ファミリンク機能が使用できます。(**29～38**ページ)
- HDMI によるコントロール機能に対応した本機以外のオーディオ製品を本機やテレビに接続しないでください。ファミリンクによる正常な動作ができなくなります。
- レコーダーなどのHDMI機器は、なるべく本機のHDMI入力に直接接続してください。テレビに直接接続されたHDMI機器の音声を本機で聞くことができない場合があります。
- **3台目以降の HDMI 機器を接続する場合には、18 ～ 19 ページをご覧ください。**

HDMI端子のない機器(テレビやDVDプレーヤーなど)を接続する

- 接続するときは、それぞれの機器の電源コードを抜いてから行ってください。

使うケーブル

- 映像出力機器の場合は、映像出力とテレビの映像入力を映像ケーブルで直接接続してください。

※映像ケーブルの接続に関しては、接続する映像機器の説明書をご覧ください。

テレビとの接続

テレビ
映像入力
※映像ケーブル
左
右
または
デジタル音声出力(光)
デジタル音声出力(光)端子へ
音声出力端子へ
ご使用の機器やお好みに合わせて、どちらかの接続をしてください。
光デジタル音声ケーブル
デジタル音声入力(光)端子へ(テレビ)
音声ケーブル
音声入力端子へ（入力2）

レコーダーなどとの接続

DVDプレーヤー／ビデオデッキなど
CATVセットトップボックス
BSデジタルチューナー／CSチューナー
CDプレーヤー／カセットデッキなど
映像出力
デジタル音声出力(光)
デジタル音声出力(光)端子へ
または
左
右
音声出力端子へ
ご使用の機器やお好みに合わせて、どちらかの接続をしてください。
光デジタル音声ケーブル
デジタル音声入力(光)端子へ(入力1)
音声ケーブル

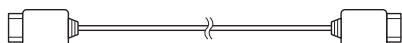
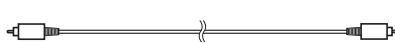
HDMI1
HDMI2
HDMI 出力(テレビへ)
HDMI 入力(レコーダー/プレーヤーから)
背面（端子部）
左
入力2
音声入力
デジタル音声入力(光)
テレビ(テレビから)
入力1
"カチッ"と音がするまで差し込む

お知らせ

- 光デジタル音声ケーブルは、曲げすぎると破損します。直径60mm以下には曲げないでください。
- 音声ケーブルは、抵抗の入っていないものをお買い求めください。
  抵抗の入っている音声ケーブルを使うと音が小さくなります。
- 音声ケーブルでテレビと接続している場合に、音声多重放送をお聞きになるときは、テレビのリモコンで音声を切り換えてください。
- 音声ケーブルでレコーダーと接続している場合に、音声多重放送をお聞きになるときは、レコーダーのリモコンで音声を切り換えてください。

レコーダー／プレーヤーなどのHDMI端子がある機器を3台接続する場合について

- 接続するときは、それぞれの機器の電源コードを抜いてから行ってください。

使うケーブル

- 使用する前に、保護キャップがついている場合は取り外して接続してください。
- HDMIケーブル、光デジタル音声ケーブルが２本以上必要なときは市販品をお買い求めください。

- 本機に接続できるレコーダーやプレーヤーなどのHDMI機器は2台のみです。
- 3台目の機器を接続する場合は、下図のようにケーブル❶を接続してください。
- 製品によってはアクオス(チューナー部など)にHDMIケーブルのみで接続しただけでは、本機から音声が出ないものもありますので、その場合はケーブル❶とケーブル❷の両方を接続してください。また、5.1chサラウンド信号を入力したい場合もケーブル❶とケーブル❷の両方を接続してください。
- ご使用の機器の取扱説明書もよくご覧のうえ、接続してください。

テレビとの接続

ファミリンク対応アクオス（ディスプレイ／チューナー一体型）

または

ファミリンク対応アクオス（ディスプレイ／チューナー分割型）

ケーブル❶とケーブル❷の両方を接続してください。

デジタル音声出力（光）端子へ

デジタル音声出力(光)　HDMI入力　HDMI入力

HDMI 入力端子へ

映像＋音声信号

HDMI ケーブル（付属品）

HDMI 入力端子へ

両方とも接続

1台目および2台目の機器の接続については、**16**ページをご覧ください。

HDMI 出力（テレビへ）端子へ

HDMI ケーブル

HDMI1　HDMI2

HDMI 出力(テレビへ)　HDMI 入力(レコーダー/プレーヤーから)

背面（端子部）

光デジタル音声ケーブルⒶ（付属品）

左　右　入力2　音声入力

デジタル音声入力(光)

“カチッ”と音がするまで差し込む

テレビ(テレビから)　入力1

音声信号（PCM）

デジタル音声入力(光)端子へ(テレビ)

レコーダーなどとの接続

3台目：ブルーレイディスクレコーダー／ハイビジョンレコーダーなど

HDMI出力　デジタル音声出力(光)

HDMI 出力端子へ

デジタル音声出力(光)端子へ

ケーブル❶
HDMIケーブル（市販品）

ケーブル❷
光デジタル音声ケーブル（市販品）

＊1

音声信号

デジタル音声入力(光)端子へ(入力 1)

ケーブル❶ を使う

3 台目を HDMI ケーブルのみで接続する

HDMI ケーブル❶を使ってテレビに接続してください。
(音声信号はテレビから光デジタル音声ケーブルⒶを経由して本機にステレオ PCM 信号で入力されます。)

音声を聞くには…

① アクオスのリモコンの「入力切換」ボタンを押して、アクオスの入力を３台目の機器を接続した HDMI 入力に切り換えてください。
② 本機のリモコンの「**テレビ**」ボタンを押して、本機の入力を「**テレビ**」に切り換えてください。

テレビ

・ 上記で選択した入力が記憶され、次回からはアクオスの入力が３台目の機器を接続した HDMI 入力に切り換わると、本機の入力が自動で「**テレビ**」に切り換わります。＊2
（テレビからの音声信号はステレオ PCM 信号になります。)

ケーブル❶ と ケーブル❷ の両方を使う

3 台目を HDMI ケーブル❶で接続しただけでは、本機から音声が出ない場合 (ディスプレイ／チューナー分割型など) や 5.1ch サラウンド信号を入力したい場合は･･･

・ 更に、光デジタル音声ケーブル❷を使って本機の「入力１」に接続してください。

音声を聞くには…

① アクオスのリモコンの「入力切換」ボタンを押して、アクオスの入力を３台目の機器を接続した HDMI 入力に切り換えてください。
② 本機のリモコンの「**入力１**」ボタンを押して、本機の入力を「**入力１**」に切り換えてください。

入力 1

・ 上記で選択した入力が記憶され、次回からはアクオスの入力が３台目の機器を接続した HDMI 入力に切り換わると、本機の入力が自動で「入力１」に切り換わります。＊2

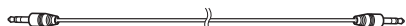
＊1 ご使用の機器だけでなく、再生するソフトに合わせて音声設定が必要になる場合があります。
再生するソフトの説明書(音声設定メニューなど)や**28**ページをご確認のうえ、音声をお楽しみください。
＊2 お買い上げ時の設定は「テレビ」です。「入力2 」、「モバイル」の音声入力を選択しても記憶されません。

・ **上記の接続で音声を聞くことができない場合や4台目の機器を本機に接続して音声を聞くには･･･**
音声ケーブルを使って、本機の「入力２」にアナログ接続し(**17**ページ)、入力を手動で切り換えてお聞きください。

モバイルオーディオ機器を接続する

携帯電話やデジタルオーディオプレーヤーなどを接続する

使うケーブル

3.5 mm ステレオミニプラグ音声ケーブル（市販品）

接続をする前に

- 接続する機器に合ったプラグのついた接続ケーブルをお選びください。
- 各機器の電源を切ってください。
- 各プラグは確実に差し込んでください。
- 接続ケーブルは、抵抗の入っていないものを使ってください。抵抗の入っているケーブルを使うと、音が小さくなります。

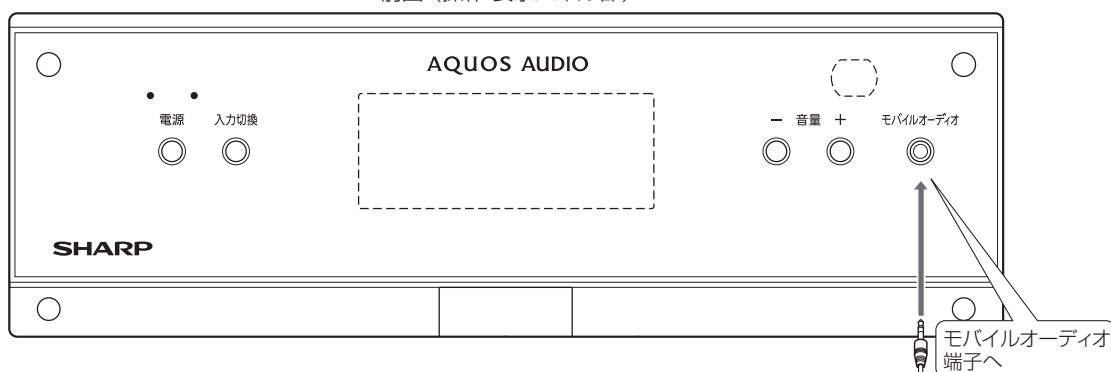
前面（操作·表示パネル部）

AQUOS AUDIO

電源　入力切換

− 音量 ＋　モバイルオーディオ

SHARP

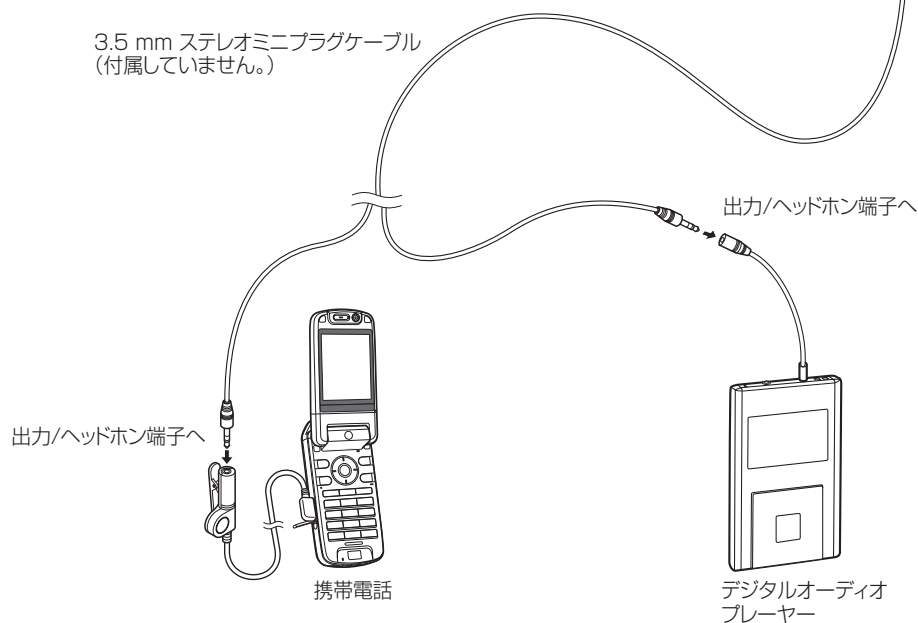
モバイルオーディオ端子へ

3.5 mm ステレオミニプラグケーブル
（付属していません。）

出力/ヘッドホン端子へ

出力/ヘッドホン端子へ

携帯電話

デジタルオーディオプレーヤー

お知らせ

- 接続や操作については、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

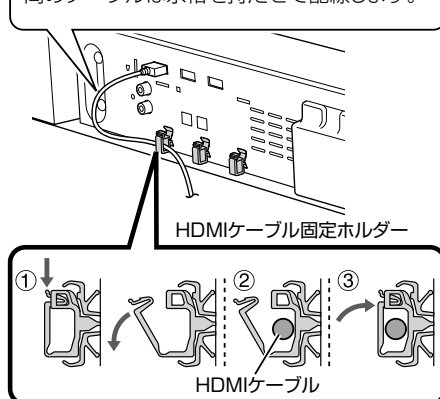
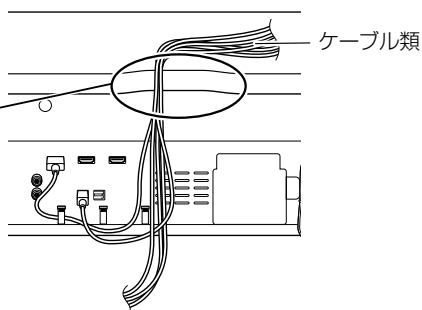
ケーブル類の処理について/リモコンに乾電池を入れる

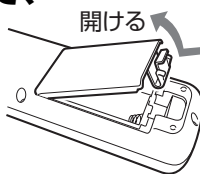
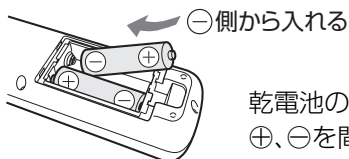
ケーブル類の処理について

HDMIケーブルの配線処理について

HDMI ケーブルを端子に差し込んだままケーブルを誤って引っ張るなどして HDMI 端子に負荷が加わると、HDMI 端子の破損や、接触不良の原因となります。
本機では、直接 HDMI 端子に負荷がかからないように専用の固定ホルダーが付いてますので、必ず全ての HDMI ケーブルを固定ホルダーに通して固定してください。

①ケーブル固定ホルダーのツマミを矢印方向に押して開く
②ケーブル固定ホルダーにHDMIケーブルを通す
③カチッと音がして固定されるまでツマミを押し込む

- 電源コードや光デジタル音声ケーブルは束ねないでください。

テレビにつないだケーブルの配線処理について

リモコンに乾電池を入れる

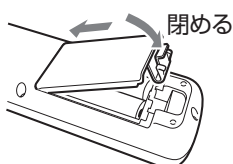
1 フタのつまみを押して、矢印の方向に開ける

リモコン用乾電池の交換時期は？

通常のご使用で約1年です。
リモコン受信部に近よらないと動作しなくなったときは、乾電池を交換してください。

2 単3乾電池を2本入れる

乾電池の方向に注意して入れてください。
⊕、⊖を間違えると、故障の原因となります。

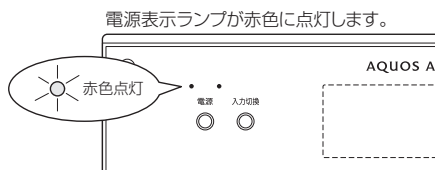
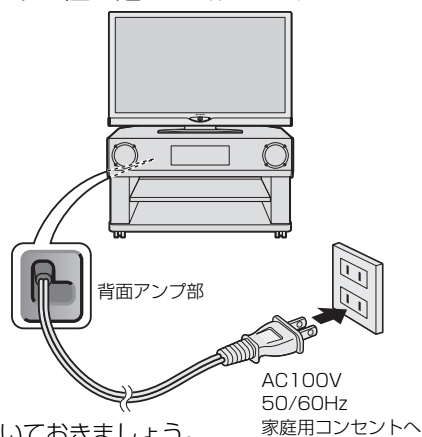
3 フタを閉める

お知らせ

- リモコンには充電池(ニカド電池など)を使用しないでください。充電池では正しく動作しません。

電源を接続する／電源を入れる

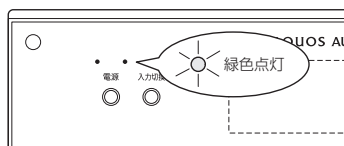
電源を接続する

各機器の接続が終わったら、最後に電源プラグを家庭用コンセントに差し込んでください。

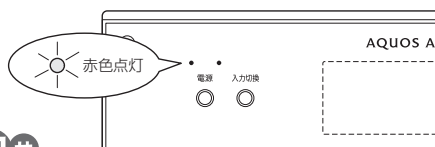
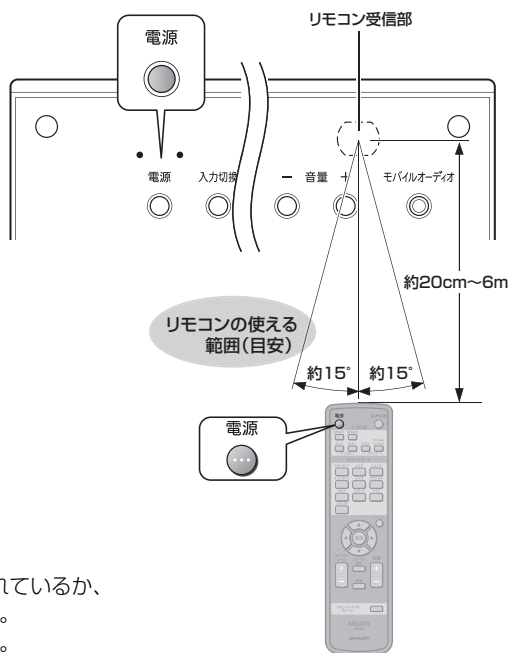
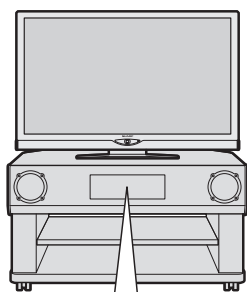
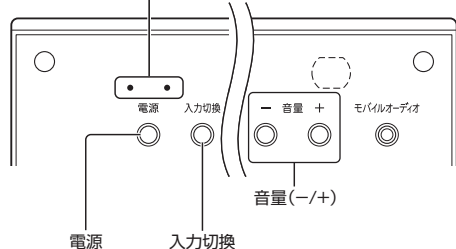
電源表示ランプが赤色に点灯します。

- それぞれの機器の電源プラグを差し込むときは、テレビの電源プラグを最後に差し込んでください。
- HDMI ケーブルの抜き差しや接続方法を変えた場合は、全ての機器の電源を入れた状態でテレビの電源を入れ直してください。

節電のために
旅行などで長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。
電源を切っていても、多少ですが電力を消費しています。

- 電源プラグを抜くときは、電源を切ってからプラグの部分を持って抜いてください。
線を引っ張ると断線の原因となります。

電源を入れる

電源（本体）または 電源（リモコン）を押す

電源を切るには…

もう一度、
電源（本体）または 電源（リモコン）を押す

お知らせ

- 電源が入らないときは、電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、またはリモコンに乾電池が正しく入っているか確認してください。
- リモコン受信部に強い光があたる場所では使用しないでください。誤動作の原因となります。
- リモコン受信部や送信部にシールなどを貼ったり、本体とリモコンの間には障害物などを置かないでください。リモコンの操作ができなくなります。
- リモコン受信部や送信部にほこりがたまると、動作しにくくなることがあります。やわらかい布でふきとってください。
- 電源を入れた直後の約4〜6秒間は音が出ません。
- 電源を切ったあとの数秒間は、すぐに電源が入りません。

ファミリンク機能を使わないで
テレビやDVD、ビデオなどの音声を聞く

音のエチケットについて

- 楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。
  ご近所のご迷惑にならないよう、十分気をつけましょう。
- 夜間にお使いになるときは、ご近所のご迷惑にならないよう、音量を小さくしてお楽しみください。

1 電源 を押して、本機の電源を入れる

2 聞きたい機器の入力を選ぶ

本体ボタンで操作する場合

「入力切換」ボタンをくり返し押して選ぶ

（表示部の上段に表示が出た後、操作してください）
入力は次の順に切り換わります。
（動作は表示より少し遅れます。）

	表示部（上段）
HDMI1（入力）	HDMI1
HDMI2（入力）	HDMI2
テレビ	テレビ
入力1	入力1
入力2	入力2
モバイル	モバイル

リモコンで操作する場合

聞きたい機器の入力ボタンを直接押す
「モバイル」ボタンを押すと表示部下段に現在の入力感度（レベル）の状態が表示されます。
表示されている間（約3秒以内）に、もう一度押すとノーマルレベル／ハイレベルを切り換えることができます。（**24**ページ）

お知らせ

- ファミリンク対応のテレビをHDMIケーブルで接続している場合は、「HDMI１」と「HDMI２」を選択したときのみ、テレビの入力も連動して切り換わります。
- 本機の入力切換を「テレビ」にしても、接続しているテレビの入力は切り換わりません

3 聞きたい機器を再生する

4 音量 を押して、音量を調整する（24ページ）

- 各入力モードごとに音量の設定ができます。

5 サラウンドやいろいろな音質を楽しむ（26～27ページ）

電源 を押して、電源を切る
（音量を下げたあと、電源を切ってください。）

音量などを調整する

音量を調整するには

を押す

表示部(下段)

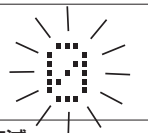
約3秒表示

調整範囲：0(小)〜50(大)

- 音量レベルが表示されます。

一時的に音声を消すには

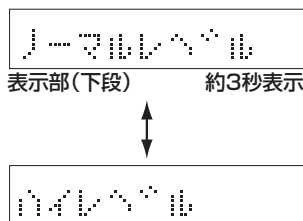
を押す

表示部(下段)

約3秒点滅

- もう一度押すと、もとの音量に戻ります。
- 他のボタン操作をしても、消音モードは解除されます。ただし、入力切換や音声切換、メニューの操作をしたときは、解除されません。
- 電源を切って入れ直すと、消音モードは解除されます。

モバイルオーディオの入力感度(レベル)を調整するには

モバイル(レベル) **を押す**

- 現在の入力感度(レベル)の状態が表示されます。表示されている間(約3秒以内)に、もう一度押すとノーマルレベル／ハイレベルを切り換えることができます。
- 押すたびに交互に切り換わります。

ノーマルレベル：通常はこのモードで使用します。
ハイレベル：出力レベルの低い携帯電話などの再生音を聞くときに使用します。

サブウーハーおよびセンターの音量レベルを調整する

サブウーハーの音量レベル調整

1 スピーカー設定 **をくり返し押して、「SW レベル」を選ぶ**

2 スピーカーレベル ＋ 大きくなる ／ − 小さくなる **を押す**

- 現在のサブウーハーの音量レベルが表示されます。表示されている間（約３秒以内）に、もう一度押すとサブウーハーの音量レベルを変えることができます。
- 各サウンドモードごとにレベルの設定ができます。

表示部（下段）　約3秒表示
調整範囲：−5〜+5

お知らせ

・サブウーハーの音が大きすぎて歪むときは、サブウーハーのレベルを下げてください。

センターの音量レベル調整

左右のスピーカーのセンター（中央）から聞こえる音の大きさを調整します。

1 スピーカー設定 **をくり返し押して、「C レベル」を選ぶ**

2 スピーカーレベル ＋ 大きくなる ／ − 小さくなる **を押す**

- 現在のセンターの音量レベルが表示されます。表示されている間（約３秒以内）に、もう一度押すとセンターの音量レベルを変えることができます。
- 各サウンドモードごとにレベルの設定ができます。

表示部（下段）　約3秒表示
調整範囲：−5〜+5

お知らせ

・入力信号がステレオ／モノラルのときは、センターの音量レベルを変えても音量は変化しません。ただし、ドルビーバーチャルスピーカーが「オン」のときは、音量は変化します。
　また、入力信号が音声多重のときは、センターの音量レベルを変えても音量は変化しません。

音声を切り換えるには

音声多重放送を見ているとき、主音声と副音声を切り換えることができます。

音声切換 **を押す**

- 押すたびに次の順に切り換わります。

主（主音声）→ 副（副音声）→ 主／副（主音声+副音声）→

主

お知らせ

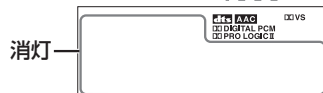
・接続している機器のデジタル音声出力設定をAACにしてください。PCMでは機能しません。

表示部を消灯モードにするには

1 メニュー **を押す**

2 **で「ディマー」を選ぶ**

3 オン／オフ **で「オン」を選び、決定を押す**

消灯

- 表示部が消灯します。
- 「オン」「オフ」を選ぶだけで換わります。
- ドルビーバーチャルスピーカーが設定されている場合、サウンドモードを示すアイコンは、消灯モードのときも点灯します。
- 消灯モードのときにボタン操作を行うと、現在の設定を約3秒表示したあと、消灯します。

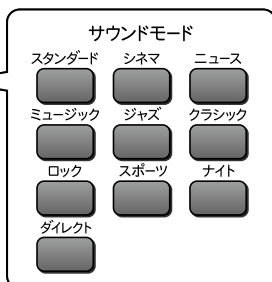
設定を元に戻すには…

「オフ」を選び、決定を押します。

サラウンドやいろいろな音質を楽しむ

プリセットサウンドモードを選んで聞くには

10種類のサウンドモードの中からお好みの音場を手がるに選べます。

聞きたいサウンドモードボタンを押す

プリセットサウンドモードの種類	表示部下段のモード表示	音のイメージ
スタンダード	スタンダ゛ート゛	標準の音声で楽しめます。
シネマ	シネマ	低音が強調された迫力のある音と、5.1chのような広がりのある音場で楽しめます。 セリフが聞き取りやすく、映画などを聞くときに適したモードです。
ニュース	ニュース	低音を抑え、小音量にしても聞き取りやすいクリアな音声になります。 ニュースなどを聞くときに適したモードです。
ミュージック	ミューシ゛ック	ボーカルなどがクリアな音で楽しめます。 音楽などを聞くときに適したモードです。
ジャズ	シ゛ャス゛	低音と高音を若干強調し、伸びのある音で楽しめます。 ジャズなどを聞くときに適したモードです。
クラシック	クラシック	低音を若干強調し、高域に伸びのある音で楽しめます。 クラシックなどを聞くときに適したモードです。
ロック	ロック	低音と高音を強調し、歯切れの良いメリハリのある音で楽しめます。 ロックやポップスなどを聞くときに適したモードです。
スポーツ	スホ゜ーツ	解説者の声は聞き取りやすく、歓声などは広がりのある音場で楽しめます。 野球やサッカーなどのスポーツ中継を聞くときに適したモードです。
ナイト	ナイト	大きな音を抑え、小音量にしてもセリフが聞きとりやすく、5.1chのような広がりのある音場で楽しめます。 映画などの音を深夜に小音量で聞くときに適したモードです。
ダイレクト	タ゛イレクト	音質調整処理をせず、原音信号を再生するモードです。

お知らせ

- それぞれのプリセットサウンドモードのサブウーハーおよびセンターの音量レベルは、推奨のレベル値にあらかじめ設定されています。
- サブウーハーおよびセンターの音量レベル調整（**25**ページ）は、それぞれのプリセットサウンドモードごとに設定することができます。
  お買いあげ時の状態に戻したいときは、〈お買い上げ時の設定状態に戻すには〉（**45**ページ）を行ってください。
- サウンドモードが切り換わるとき、一瞬音声が途切れます。
- スタンダード、ニュース、ミュージック、ジャズ、スポーツ、ナイトのサウンドモード時、入力信号が大きすぎたり小さすぎたりした場合には、自動的に適切な音量レベルにする機能が働きます。この機能を働かせたくない場合は、上記以外のサウンドモードでお聞きください。

ドルビーバーチャルスピーカー(DVS)で聞く

■ ドルビーバーチャルスピーカー(DVS)は、2.1chスピーカーで5.1chのようなサラウンド効果を楽しむことができるシステムです。
2chのステレオ信号でDVSが働いているときは、ドルビープロロジックⅡ(**28**ページ)も働いて、5.1chのようなサラウンド効果を楽しむことができます。

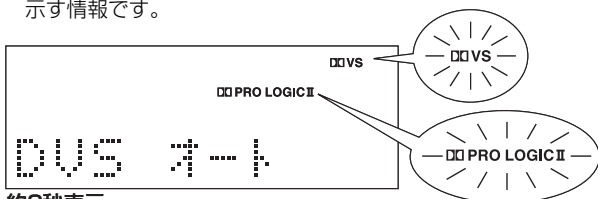
現在のDVSのモードが表示されます。
表示されている間(約3秒以内)に、もう一度押すと次の順でモードが切り換わります。

「**DVS オート**」→「**DVS オン**」→「**DVS オフ**」

DVS オート時

プリセットサウンドモードと音声信号の種類によって、下記表のようにDVSのオン/オフが自動的に切り換わります。

プリセットサウンドモードの種類	2chステレオ信号(サラウンド情報なし)	2chステレオ信号(サラウンド情報あり)および5.1chなどのマルチ信号
スタンダード、ミュージック、ジャズ、クラシック、ロック	オフ	オン*1
シネマ、ニュース、スポーツ、ナイト	オン*2	オン*1
ダイレクト	オフ	オフ

* サラウンド情報とは元の信号がマルチチャンネルであることを示す情報です。

＊1 2chステレオ信号でもサラウンド情報が入っている場合は、ドルビープロロジックⅡとDVSを働かせて、5.1chに近い臨場感を得ることができます。
＊2 サラウンド情報が入っていない場合でも、映画のセリフやアナウンサーの声などをより聞き取りやすくするために、DVSが「オン」となります。

約3秒表示

• 2chステレオ信号でDVSが働いているときは**DD VS**と**DD PRO LOGIC Ⅱ**の両方が点灯します。
5.1chなどのマルチ信号でDVSが働いているときは**DD VS**のみが点灯します。

DVS オン時

ダイレクトを除く全てのプリセットサウンドモードでDVSを「オン」にします。
2chステレオ信号や5.1chなどのマルチ信号を再生する場合にDVSが働き、5.1chのようなサラウンド効果を楽しめます。
* プリセットサウンドモードがダイレクトの場合は DVS が働きません。

DVS オフ時

全てのプリセットサウンドモードでDVSを「オフ」にします。

お知らせ

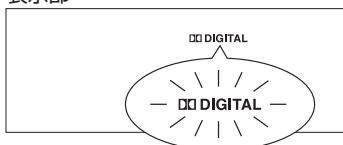
* モノラル信号では、ドルビープロロジックⅡやDVSを働かせてもサラウンド効果を得ることはできません。
* 入力信号の種類によっては、DVSが働かないことがあります。
(例:音声多重などの信号で「DVS オン」のモードの場合は表示部の**DD VS**が点滅し、DVSの効果は得られません。
「DVS オフ」または「DVS オート」のモードにすると表示部の点滅を消すことができます。)
* ダイレクトモードは音質処理をせず、原音信号を再生するモードです。そのため、「DVS オート」や「DVS オン」のモードに設定してもDVSは働きません。他のプリセットサウンドモードに切り換えた場合は、「DVS オート」や「DVS オン」のモード設定に従ってDVSが働きます。

各種デコーダーについて

■ この製品には、ドルビーデジタル方式･DTS方式･デジタル放送のAAC方式に対応した各種デコーダーを搭載しています。

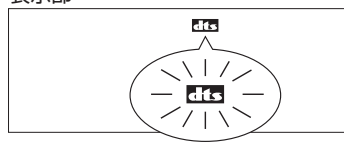
DOLBY DIGITAL（ドルビー デジタル）

劇場向けデジタル音声システムの1つです。
本機では、このドルビーデジタル方式の音を楽しむことができます。

表示部

• ドルビーデジタル方式の信号が入力されると点灯。

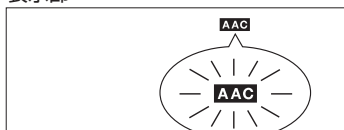
DTS(Digital Theater Systems)（デジタル シアター システムズ）

劇場向けデジタル音声システムの1つです。
本機では、このDTS方式の音を楽しむことができます。

表示部

• DTS方式の信号が入力されると点灯。

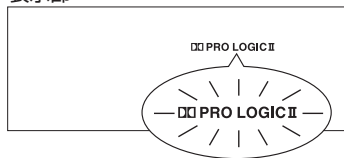
AAC(Advanced Audio Coding)（アドバンスド オーディオ コーディング）

デジタル放送に採用されているデジタル音声システムです。デジタルチューナーからの出力を光デジタル音声ケーブルを使って本機に接続したときは、高音質な音を楽しむことができます。

表示部

• デジタル放送のAAC方式の信号が入力されると点灯。

DOLBY PRO LOGIC Ⅱ（ドルビー プロ ロジック）

2chステレオ音声を広がりのある音に拡張するシステムで、2chステレオ信号のとき、ドルビーバーチャルスピーカーを「オン」にすると、ドルビープロロジックⅡが働き、立体的な音響効果を楽しめます。

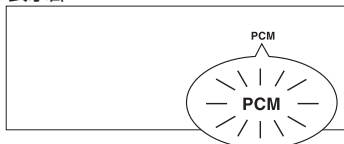
表示部

• ドルビープロロジックⅡが働くと点灯。

PCM(Pulse Code Modulation)（パルス コード モジュレーション）

CDやDVDなどに採用されているデジタル音声信号の総称です。
本機では、CD や DVD などのデジタル音声を楽しむことができます。

表示部

• PCM信号が入力されると点灯。

お知らせ

本機でデコードし、音声を鳴らすことができるデジタル音声信号は、このページに記載されている方式のみです。
これ以外のデジタル音声信号を鳴らす場合は、アナログ音声接続（**17**ページ参照）または接続機器側の設定等を変更することでお楽しみください。（**34**ページ参照）
詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書や再生するソフトの説明書（音声設定メニューなど）をご覧ください。

ファミリンクについて

ファミリンク機能*[1]とは

■ 本機とファミリンク対応の当社製アクオスやブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーなどの機器をHDMIケーブルで接続することで、これらの機器が相互に連携し動作する機能です。

■ アクオスのリモコン(またはブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーのファミリモコン)をアクオスに向けて操作することにより、本機の電源「入／切」や音量調整、消音、音声切換などを行うことができます。
また、アクオスやブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーの動作に連動して、本機の入力切換が自動で切り換わります。
ただし、アクオスのファミリンク機能選択で、「AQUOSオーディオで聞く」*[2]モードを選んでいない場合は、これらの機能は働きません(ただし、本機の電源「切」は設定に関係なく連動します)。

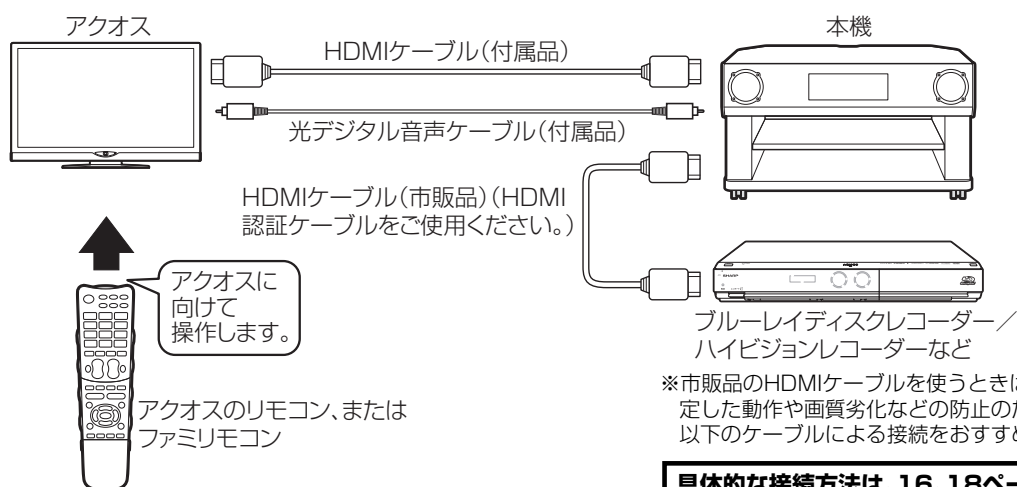
＊1 製品によっては、ファミリンク機能の名称ではなく、HDMIコントロール機能という名称を使用しているものもあります。
＊2 製品によっては、「AQUOSオーディオで聞く」ではなく、「AQUOSサラウンドで聞く」という名称を使用しているものもあります。

また、新製品や旧製品などのファミリンク対応製品と組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書に記載されている内容と異なる場合があります。ご使用になる各機器の取扱説明書も併せてお読みください。

ファミリンク対応機種については･･･シャープホームページまたは当社液晶カラーテレビの総合カタログをご覧ください。

シャープホームページでの確認方法

アドレスを入力し AQUOS オーディオのページを開き、「AQUOS ファミリンク対応状況」で確認ください。

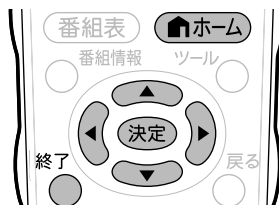
http://www.sharp.co.jp/support/an/index.html

※市販品のHDMIケーブルを使うときは、より安定した動作や画質劣化などの防止のため、2m以下のケーブルによる接続をおすすめします。

具体的な接続方法は、16、18ページをご覧ください。

お知らせ

- ファミリンク機能を使うには、本機とアクオスやブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーなどをHDMIケーブルで接続する必要があります。
ファミリンクに対応した当社製アクオス、ブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーなどを直接接続してください。
- アクオスのリモコンやファミリモコンをアクオスに向けて操作してください。
本機やブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーなどは、ファミリンクのリモコン信号を直接受信しません。
- 詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

ファミリンク機能を使うために
アクオスやレコーダーの音声を本機で聞くように設定する

アクオスのリモコンを使って
アクオス側の設定を変えます

[操作で使用するボタン]

アクオスのリモコン（例）

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

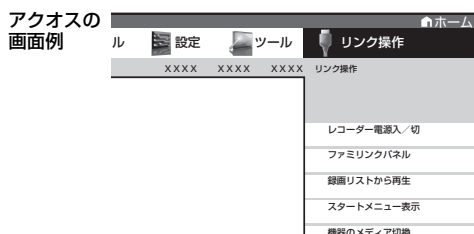
デジタル放送の番組に合わせて本機のサウンドモードが自動で切り換わるように設定する

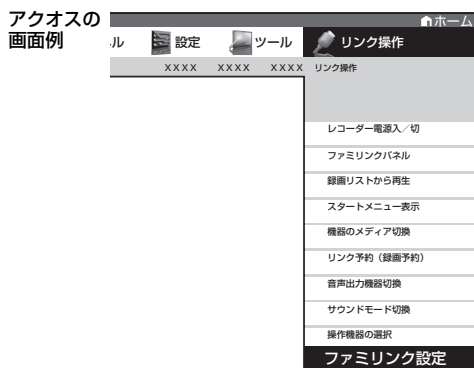
アクオスの「ジャンル連動」を「する」に設定すると、デジタル放送などのジャンル情報があるテレビ番組を本機で聞いているとき、番組に合ったサウンドモードに自動的に切り換わります。

- ジャンル情報の詳細につきましては、**36** ページをご覧ください。
- **新製品や旧製品などのファミリンク対応アクオスと組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書と異なる場合があります。ご使用になるアクオスの取扱説明書も併せてご覧ください。**

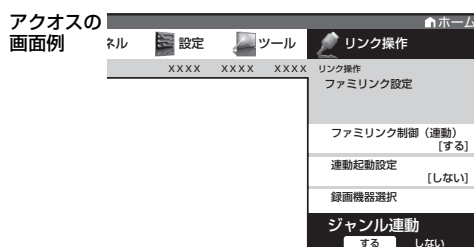
1 （ホーム）を押す

- ホームメニュー画面が表示されます。

2 （▲▼◀▶）で「リンク操作」を選ぶ

アクオスの
画面例

3 （▲▼◀▶）で「ファミリンク設定」を選び、（決定）を押す

アクオスの
画面例

4 （▲▼◀▶）で「ジャンル連動」を選ぶ

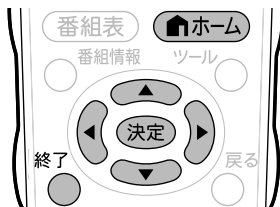
5 （▲▼◀▶）で「する」を選び、（決定）を押す

アクオスの
画面例

本機の
表示部

6 （終了）を押す

- ホームメニュー画面が消えます。

ジャンル連動を解除するには…

上記の手順5で「しない」を選び、（決定）を押します。

[操作で使用するボタン]

アクオスのリモコン（例）

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

デジタル放送のサラウンド番組を臨場感のある音声で聞けるように設定する

アクオスの「デジタル音声設定」を「AAC」に設定すると、デジタル放送のサラウンド番組があるテレビ番組を本機で聞いているとき、臨場感のある音声で聞くことができます。

- 設定する前に、アクオスの入力切換を「テレビ」にしてください。
- **新製品や旧製品などのファミリンク対応アクオスと組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書と異なる場合があります。ご使用になるアクオスの取扱説明書も合わせてご覧ください。**

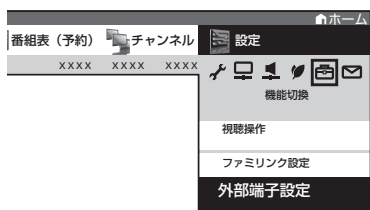
1 ホーム を押す

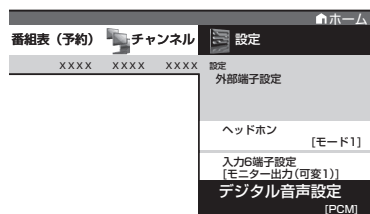
- ホームメニュー画面が表示されます。

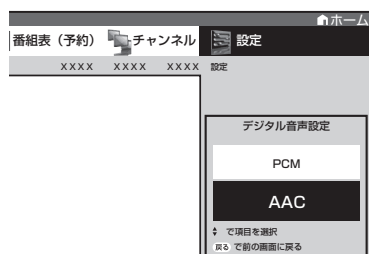
2 ◀▶ で「設定」を選ぶ

アクオスの画面例

3 ▲▼◀▶ で（機能切換）－「外部端子設定」を選び、決定 を押す

アクオスの画面例

4 ▲▼ で「デジタル音声設定」を選び、決定 を押す

アクオスの画面例

5 ▲▼ で「AAC」を選び、決定 を押す

アクオスの画面例

6 終了 を押す

- ホームメニュー画面が消えます。

「PCM」に設定した状態では…

- サラウンド番組において十分なサラウンド効果は得られません。
- 音声多重放送の受信中に、本機のリモコンで音声切換の操作をしても音声を切り換えることはできません。
  本機から聞こえる音声を切り換えるには、アクオスのリモコンをアクオスに向けて操作します。
  このとき、本機の表示部には音声モードの表示はされません。本機に音声モードの表示をさせるには「AAC」に設定してください。

アクオスやレコーダーの音声を本機で聞くように設定する(つづき)

アクオスに向けて
操作します。

アクオスのリモコン(例)

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

アクオスやレコーダーの音声を本機で聞くように設定する

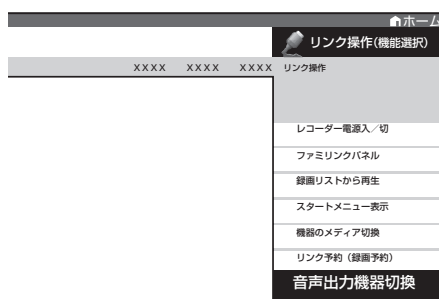
アクオスのリモコン(またはファミリモコン)で、アクオスと連動して本機の電源を入れたり、音量や消音、音声切換の操作ができるようになります。

- **新製品や旧製品などのファミリンク対応アクオスと組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書と異なる場合があります。ご使用になるアクオスの取扱説明書も併せてご覧ください。**

1 リモコンフタ内の 機能選択 を押す

- ファミリンク機能選択メニュー画面が表示されます。

2 ▲▼で「音声出力切換」を選び、決定 を押す

アクオスの画面例

3 ▲▼で「AQUOSオーディオで聞く」を選び、決定 を押す

アクオスの画面例

4 終了 を押す

- ファミリンク機能選択メニュー画面が消えます。

- ファミリンク動作時(「AQUOSオーディオで聞く」モードの時)は、アクオスと本機の両方から同時に音声を出すことはできません。

アクオスから音声を聞くように戻すには…

上記の手順3で「AQUOSで聞く」を選び、決定 を押します。

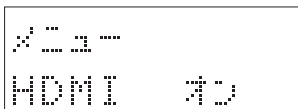
- 本機は消音モード状態になります。
- 本機の音量調整などは使用できなくなります。
- 本機の電源を切っていても、レコーダーの操作をすると電源が入る場合があります。

ファミリンク機能を使って
レコーダーの映像や音声を楽しむときの設定

レコーダーを再生したときに、アクオスで見る映像と本機から出る音声のズレを軽減したい場合は・・・

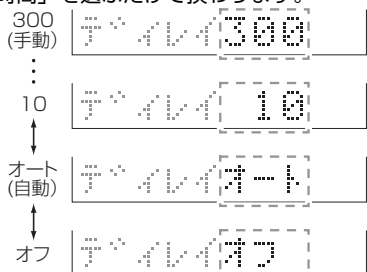
レコーダーを再生したときに、アクオスで見る再生映像と本機から聞こえる音声にズレがあると感じた場合には、音声の遅延(ディレイ)設定を調整してください。
本機から出る音声の出力を遅らせて映像とのズレを軽減させることができます。

お買い上げ時の状態:遅延(ディレイ)設定「オート」モード
設定するには:本機のリモコンを本機に向けて操作します

1 メニュー を押す

2 ◀▶で「ディレイ」を選ぶ

• 現在のモード(設定値)が表示されます。

3 ▲▼で「ディレイ時間」を選び、決定を押す

• 音声遅延(ディレイ)自動設定機能付のファミリンク対応アクオスとHDMIケーブルで接続した場合に、「ディレイオート」を選んでいると最適な音声遅延状態に自動で設定されます。
(自動設定機能が付いていないテレビと接続している場合、ディレイ量は"0"になります。)
• 手動設定は10mS～300mSの範囲で、10mS単位で調整できます。
• 「ディレイ時間」を選ぶだけで換わります。

・ 音声の遅延設定は、HDMI1／HDMI2／テレビ／入力1のそれぞれの入力で個別に設定できます。
入力2およびモバイルの入力では、設定をすることができません。
・ 調整操作時に、再生音にノイズが発生する場合があります。
・ 「オート」モードでは、アクオスまたは本機の入力を切り換えたときやディスクを再生しはじめたときなど、映像に音声を合わせるために一瞬音声が途切れることがあります。

省待機電力モードにするには・・・

お買い上げの状態は、本機の電源が「切」のときでも、ファミリンク非対応機器(レコーダーなど)の映像や音声をアクオスで見たり聞いたりできる「HDMIオン」モードに設定されています。
設定を「HDMIオート」モードにすると、これらが機能しなくなりますが、効果的な省エネの省待機電力モード(**48**ページ)にすることができます。
なお、ファミリンク対応機器(レコーダーなど)の場合は、「HDMIオン/オート」モードに関係なく、アクオスで映像や音声を見たり聞いたり、コントロールすることができます。

お買い上げ時の状態:「HDMI オン」モード
設定するには:本機のリモコンを本機に向けて操作します

1 メニュー を押す

メニュー
HDMI オン

2 ◀▶で「HDMI」を選ぶ

3 オン▲ オート▼で「オート」を選び、決定を押す

• 「オン」「オート」を選ぶだけで換わります。

設定を元に戻すには…

「オン」を選び、決定を押します。

・ ファミリンク対応機器をお使いの場合は、「HDMIオート」モードに設定してお使いください。
本機の電源を切ったときにアクオスから映像や音声がでなくなった場合は、アクオスの入力を一度他の入力に切り換えて元の入力に戻してください。
・ ファミリンク非対応機器をお使いの場合は、「HDMIオン」モードに設定してお使いください。
本機の電源が「切」のとき、「HDMIオート」モードの設定では、アクオスで映像や音声を見たり聞いたりすることができません。

操作で使用するボタン

ファミリンク機能を使って レコーダーの映像や音声を楽しむときの設定(つづき)

ハイビジョンレコーダーやブルーレイディスクレコーダーなどをご使用のお客さまへ

アクオスファミリンク機能を使って、本機でサラウンド音声を楽しむために、それぞれの機器の音声出力設定を行ってください。

設定のしかた

それぞれの機器の設定方法にしたがって、音声出力設定を行ってください。

例) シャープ製ハイビジョンレコーダー(DV-ACW85)の場合

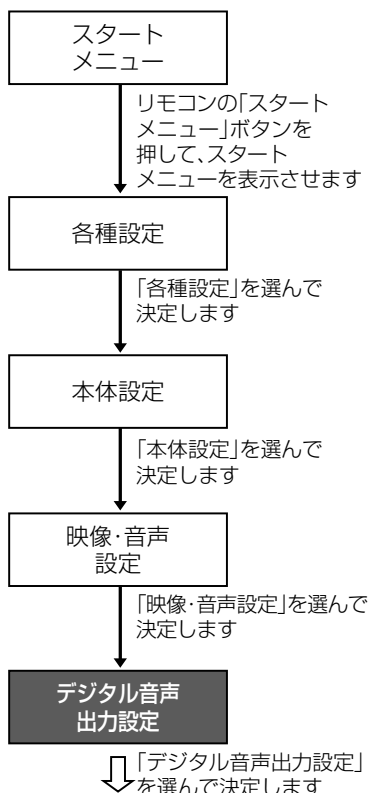
スタートメニュー
↓ リモコンの「スタートメニュー」ボタンを押して、スタートメニューを表示させます

各種設定
↓ 「各種設定」を選んで決定します

本体設定
↓ 「本体設定」を選んで決定します

映像・音声設定
↓ 「映像・音声設定」を選んで決定します

デジタル音声出力設定
⇩ 「デジタル音声出力設定」を選んで決定します

- **デジタル放送視聴時の信号形式**
  AAC を選んで決定します
- **DVD再生時の信号形式**
  ドルビーデジタル／DTS を選んで決定します

例) シャープ製ブルーレイディスクレコーダー(BD-HDW32/35/40)の場合

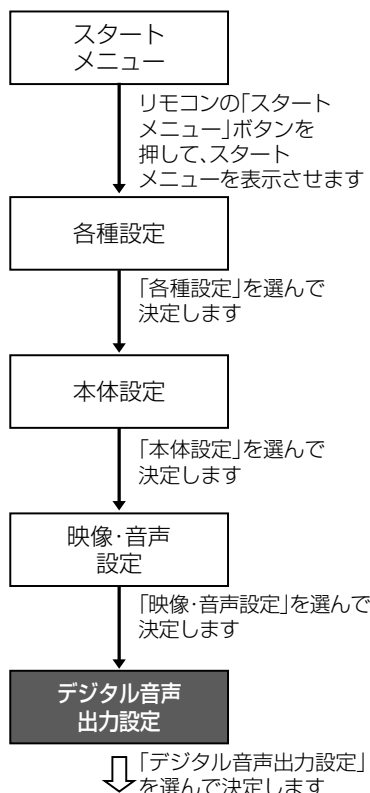
スタートメニュー
↓ リモコンの「スタートメニュー」ボタンを押して、スタートメニューを表示させます

各種設定
↓ 「各種設定」を選んで決定します

本体設定
↓ 「本体設定」を選んで決定します

映像・音声設定
↓ 「映像・音声設定」を選んで決定します

デジタル音声出力設定
⇩ 「デジタル音声出力設定」を選んで決定します

- **サラウンド機器を接続する出力端子**
  HDMI を選んで決定します
  ⇩
- **HDMI出力端子から出力される信号形式**
  オート を選んで決定します

例) シャープ製ブルーレイディスクレコーダー(BD-HDW43/45/50)の場合

ホーム
↓ リモコンの「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面を表示させます

設定
↓ 「設定」を選んで決定します

映像・音声調整
↓ 「映像・音声調整」を選んで決定します

映像・音声設定
↓ 「映像・音声設定」を選んで決定します

デジタル音声出力設定
⇩ 「デジタル音声出力設定」を選んで決定します

- **サラウンド機器を接続する出力端子**
  HDMI を選んで決定します

- **HDMI出力端子から出力される信号形式**
  オート を選んで決定します

- 詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書の「映像・音声設定」－「(デジタルまたはHDMI)音声出力設定」項目をよくご覧のうえ、設定を行ってください。
- ご使用の機器だけでなく、再生するソフトに合わせて音声設定が必要になる場合があります。再生するソフトの説明書(音声設定メニューなど)や**28**ページをご確認のうえ、音声をお楽しみください。
- レコーダーの音声出力設定の状態により、レコーダーで設定されている音質効果が本機の再生音声に反映されない場合があります。

ファミリンク機能を使って アクオスやレコーダーの音声を本機で聞く

アクオスのリモコンを使います

アクオスに向けて操作します。

アクオスのリモコン(例)

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

本機から音声が出るように、アクオスを設定してください。(**32**ページ)

アクオスの音声を本機で聞く

1 電源 **を押す**

- アクオスに連動して本機の電源が自動で入ります。
- 本機の入力切換が自動で「テレビ」になります。
- デジタル放送などのジャンル情報があるテレビ番組を本機で聞いているとき、番組に合ったサウンドモードに自動的に切り換わります。

(「ジャンル連動」を「する」に設定している場合… **30**ページ参照)

2 音量 **を押して、音量を調整する**

大きくなる
小さくなる

• アクオスと本機に音量レベルが表示されます。

AQUOS オーディオ 20

AQUOS AUDIO
テレビ
音量 20

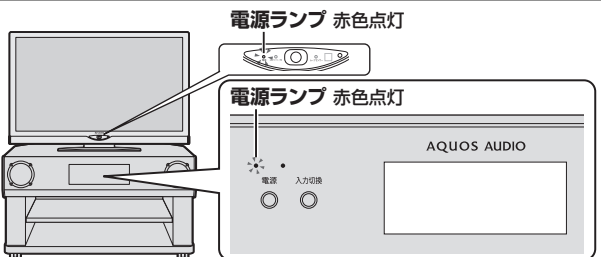
約3秒表示

お知らせ

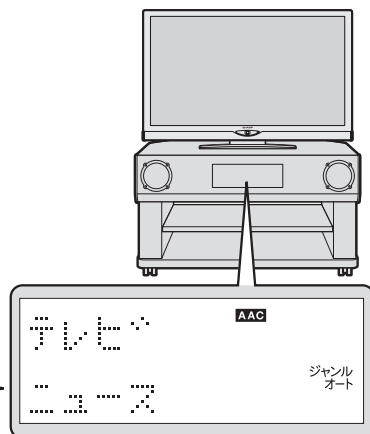
- 入力1、入力2、モバイルオーディオに接続した他の機器の音声を聞きたいときは、本機の「入力切換」ボタンで聞きたい機器の入力を選んでください。(**23**ページ)
  本機の電源「入/切」や音量調整、消音などはアクオスに連動し操作できます。
- 他の機器の音声を聞いていた状態で電源を切り、アクオスの電源を入れるとアクオスに連動し入力が切り換わります。
- HDMI1やHDMI2に接続したファミリンク対応レコーダーを再生すると、本機とアクオスの入力がレコーダー側に自動で切り換わります。(録画リストやスタートメニュー、番組表などの操作でも自動で切り換わります。)
- 本機にファミリンク対応レコーダーを2台接続している場合、後から再生などをしたレコーダーに自動で切り換わります。
- 本機のHDMI1とHDMI2の両方に接続したファミリンク対応レコーダーをアクオスのリモコンを使って切り換えるには、アクオスのファミリンク機能選択メニューの「HDMI機器選択」を選んで、「決定」を押してください。「決定」を押すたびに、接続されている機器を順次切り換えていきます。
  製品によっては、ファミリンク機能選択メニューに「HDMI機器選択」が表示されないものがあります。
  その場合は、本機のリモコンの「HDMI1」または「HDMI2」ボタンを押して入力を切り換えてください。(**23**ページ参照)

聞き終えたら

電源 **を押して、電源を切る**

- アクオスに連動して本機の電源も自動で切れます。

デジタル放送のテレビ番組ジャンル情報

デジタル放送などのジャンル情報があるテレビ番組を本機で聞いているとき、番組に合ったサウンドモードに自動的に切り換わります。(設定方法については、**30**ページをご覧ください。)

ジャンル情報がある番組(デジタル放送など)		
ジャンル情報(電子番組表)	放送の信号	サウンドモード
情報/ワイドショー/ドラマ/バラエティ/ドキュメンタリー/趣味/教育/福祉	ステレオ/マルチチャンネル	スタンダード *
映画	ステレオ/マルチチャンネル	シネマ
ニュース/報道	ステレオ/マルチチャンネル	ニュース
スポーツ	ステレオ/マルチチャンネル	スポーツ
音楽/劇場/公演	ステレオ/マルチチャンネル	ミュージック
アニメ/特撮	ステレオ	スタンダード
	マルチチャンネル	シネマ
ジャンル情報が認識できない場合		
地上アナログ放送やDVDソフトなど	スタンダードに設定されます。お好みのサウンドモードでお聞きになりたいときは、手動で切り換えてください。	

* デジタル放送でもジャンル情報がない場合は、サウンドモードがスタンダードになります。
- サウンドモードが切り換わるとき、一瞬音声が途切れます。
- 放送信号の種類が切り換わるとき、一瞬音声が途切れることがあります。

サウンドモードを手動で切り換えるには…

- 新製品や旧製品などのファミリンク対応アクオスと組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書と異なる場合があります。ご使用になるアクオスの取扱説明書も併せてご覧ください。

アクオスに向けて操作します。

フタを開けたところ

アクオスのリモコン(例)

1 リモコンフタ内の 機能選択 を押す

- ファミリンク機能選択メニュー画面が表示されます。

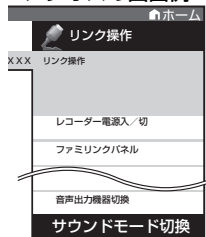
アクオスの画面例

2 で「サウンドモード切換」を選び、決定 を押す

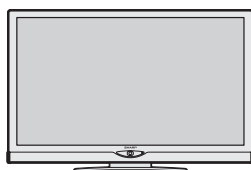
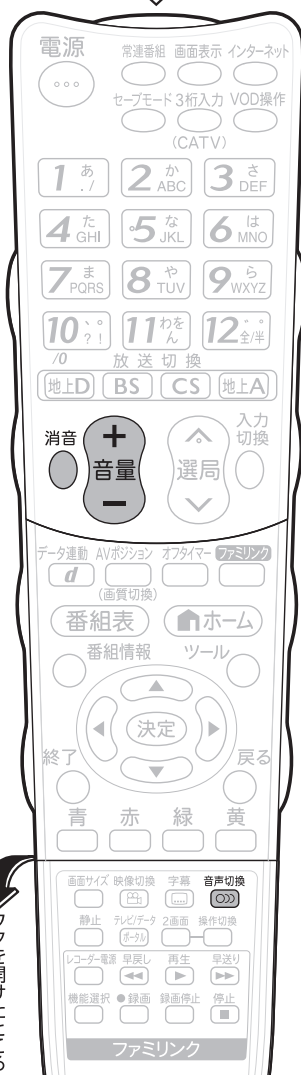
- 決定 を押すたびに次の順に切り換わります。

スタンダード → シネマ → ニュース → ミュージック → ジャズ → クラシック → ロック → スポーツ → ナイト → ダイレクト → スタンダード

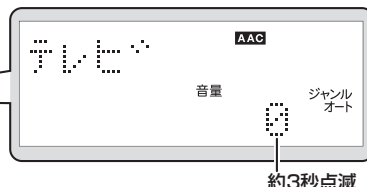
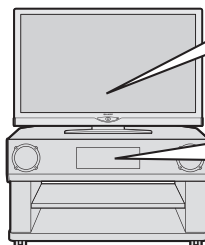
3 終了 を押す

- ファミリンク機能選択メニュー画面が消えます。

- サウンドモードが切り換わるとき、一瞬音声が途切れます。

アクオスに向けて
操作します。

アクオスのリモコン(例)

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

一時的に音声を消すには(消音モード)

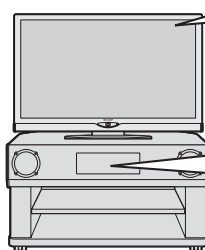
消音 を押す

消音モードを解除するには

• もう一度 消音 を押す　　または 音量 を押す。

アクオスと本機の両方から音声を出したい場合は・・・

- アクオスから音声が出ている状態で、本機のリモコンを本機に向けて「消音」ボタンを押してください。
  一時的に本機の消音モード状態が解除され、アクオスと本機の両方から音声が出ます。ただし、レコーダーを再生したときにアクオスと本機から出る音声にズレが生じる場合があります。(電源の「入」や音量調整、入力切換などのファミリンクによる連動動作はしなくなります。)

音声多重放送の音声を切り換えるには

リモコンフタ内の 音声切換 を押す

• を押すたびに次の順に切り換わります。

主(主音声) → 副(副音声) → 主／副(主音声+副音声) → (主に戻る)

レコーダーの音声多重放送を聞くときは…

- レコーダーに付属のリモコンをレコーダーに向けて「音声切換」の操作をしてください。
  (レコーダーのデジタル音声出力の設定が「AAC」のときは切り換わらないことがあります。その場合は、レコーダーのデジタル音声出力の設定を「PCM」にしてください。)
- レコーダーのデジタル音声出力の設定が「AAC」の場合は、本機のリモコンを本機に向けて「音声切換」の操作をしても同様に切り換えできます。

ファミリンクパネルを使って本機を操作する

ファミリンクパネル対応のアクオスをご使用のお客様は、ファミリンクパネル(オーディオ操作パネル)を表示させることにより、アクオスのリモコンで本機の操作を行うことができます。

- 操作する前に、アクオスの入力切換を「テレビ」にしてください。

ファミリンクパネルの操作のしかた

1 **を押す**

- ファミリンクパネル(機器選択パネル)が表示されます。

アクオスとファミリンクでつながっている機器(ファミリンクパネル対応機器)が表示されます。

2 **で「オーディオ」を選び、決定を押す**

- ファミリンクパネル(オーディオ操作パネル)が表示されます。

ボタン	説明
電源	本機の電源を入/切(待機)します。
入力切換	本機の入力を切り換えます。
バーチャル サラウンド	ドルビーバーチャルスピーカー機能のモードの確認および切り換えをします。
オート	本機のサウンドモードがデジタル放送の番組情報に合わせて自動で切り換わるように、ジャンル連動機能を入(する)/切(しない)します。
マニュアル	本機のサウンドモードを手動で切り換えます。ジャンル情報がない地上アナログ放送やDVD映像などを視聴するときに使用します。

- テレビの入力がレコーダー/プレーヤーの入力になっている場合は、ファミリンクパネルにレコーダー操作パネルが表示されます。その場合は、機器選択パネルで「オーディオ」を選んでオーディオ操作パネルに切り換えてください。

3 **で操作したい機能のボタンを選び、決定を押す**

4 終了 **を押す**

- ファミリンクパネルが消えます。

アクオスのリモコン(例)

「故障かな？」と思ったら

■ 次のような場合は故障でないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
なお、「保証とアフターサービス」については**49**ページをご覧ください。

	こんなときに	ここをお確かめください	参照ページ
共通	付属の光デジタルケーブルが接続できない	• 先端についている保護キャップを取り外していますか？ 接続する前に保護キャップがついている場合は取り外してください。	16〜18
		• 端子の方向に対してプラグの方向はあっていますか。	—
	付属のHDMIケーブルが接続できない	• 端子の方向に対してプラグの方向はあっていますか。	—
	音が出ない	• 音量が「0」になっていませんか。	23、35
		• 一時的に音声を消す設定（消音モード）になっていませんか。	24、37
		• 接続している機器が正しく選択されていますか。（入力切換をまちがえていませんか。）	23
		• 接続している機器の電源は入っていますか。	—
		• 接続している機器が、本機の入力端子に正しく接続されていますか。	16〜18
		• HDMIケーブルや音声ケーブル類は、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり正しく差し込まれていますか。抜けていませんか。	16〜18
		ケーブルを正しく接続し直して、一度<リセット操作>をしてください。	45
		• ファミリンク機能をご使用の場合は、40ページもご確認ください。	
	音の大きさが勝手に変わる	• スタンダード、ニュース、ミュージック、ジャズ、スポーツ、ナイトのサウンドモード時、入力信号が大きすぎたり小さすぎたりした場合には、自動的に適切な音量レベルにする機能が働きます。この機能を働かせたくない場合は、上記以外のサウンドモードでお聞きください。	26
	左右から逆の音が出る	• 音声入力（アナログ）のL（左）／R（右）が正しく接続されていますか。	17
	雑音が出る	• パソコンや無線機器などは本機のそばで使用しないでください。	9
	ボタンを押しているうちに正常な動作をしなくなった	• 一度、電源を切り、操作をやり直してください。それでも動作しないときは、<リセット操作>をしてください。	22、45
	表示部がつかない	• 表示部が消灯モードになっていませんか。点灯させたいときは、点灯モードに切り換えてください。	25
	電源が入らない	• 電源プラグがコンセントからはずれていませんか。	22
		• 本機の保護回路が働いていることがあります。電源プラグをコンセントから抜き、5分以上たってから再び差し込んでください。	45
		• 一度<リセット操作>をしてください。	45
	PCMやAACなどの表示がでない	• 光デジタル音声ケーブルで、「テレビ」端子または「入力1」端子に接続していますか。	16〜18
		• 付属のHDMIケーブルまたはHDMI認証ケーブルを使用していますか。 HDMI端子に正しく接続していますか。	16、18
		• 接続している機器から音声信号はでていますか。	45
		本機が対応していない信号の場合は、認識できません。	28
リモコン	リモコンが動作しない、または正しい動作をしない	• 乾電池の ⊕、⊖ の向きが逆になっていませんか。	21
		• 乾電池が消耗していませんか。	21
		• リモコンの送信部を本機のリモコン受信部に正しく向けていますか。	22
		• リモコン受信部との距離が遠すぎませんか。または、近すぎませんか。	22
		• 本機の前に障害物はありませんか。	22
		• リモコン受信部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光など）があたっていませんか。	22
		• リモコンの正しいボタンを押していますか。	13
		• 他の機器のリモコンを同時に操作していませんか。	—
	リモコンで電源が入らない	• 本機の電源プラグは、コンセントに正しく接続されていますか。	22
		• 乾電池は入っていますか。	21

次のページに続く

「故障かな？」と思ったら（つづき）

	こんなときに	ここをお確かめください	参照ページ
ファミリンク	ファミリンク機能が正しく動作しない	•アクオスの設定が「AQUOSオーディオで聞く」モードになっていますか。	32
		•HDMIケーブルは正しく接続されていますか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度<リセット操作>をしてください。	16、18 45
		•HDMIケーブルは、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり差し込まれていますか。抜けかけていませんか。	16、18
		•電源を入れた状態でHDMIケーブルを抜き差ししないでください。 映像が映らなくなったり、正しく映らない場合があります。	—
		•一旦、アクオスの入力を手動で切り換えて、レコーダーの映像がでることを確認してください。	—
	アクオスのリモコンで本機を操作できない	•アクオスのリモコン受光部に向けて、リモコンを操作していますか。 リモコンの操作範囲内でご使用ください。	29～32 35～38
		•アクオスの設定が「AQUOSオーディオで聞く」モードになっていますか。	32
		•ファミリンク対応の機器を使用していますか。	—
		•HDMIケーブルは正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度＜リセット操作＞をしてください。	 45
		•アクオスのリモコンの乾電池が消耗していませんか。	—
	アクオスの音声が本機から聞こえない/出ない	•アクオスの音声出力と本機の「テレビ」端子とが、光音声ケーブルで正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度＜リセット操作＞をしてください。	16、18 45
		•アクオスの設定が「AQUOSオーディオで聞く」モードになっていますか。	32
	音や画像が出ない	•HDMI対応の機器を使用していますか。	16、18
		•HDMIケーブルは正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度<リセット操作>をしてください。	16、18 45
		•HDMIケーブルや音声ケーブル類は、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり差し込まれていますか。抜けかけていませんか。	—
		•電源を入れた状態でHDMIケーブルを抜き差ししないでください。 映像が映らなくなったり、正しく映らない場合があります。	—
	電源が勝手に切れる	•HDMIケーブルは正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度<リセット操作>をしてください。	16、18 45
		•HDMIケーブルは、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり差し込まれていますか。	—
	自動でサウンドモード（ジャンル連動）が切り換わらない	•アクオスの設定が「AQUOSオーディオで聞く」モードになっていますか。	32
		•アクオスの「機能切換 — ファミリンク設定」の「ジャンル連動」が、「する」になっていますか。	30
	ジャンル情報に連動してサウンドモードが切り換わるときに、一瞬音声が途切れる	•不良や故障ではありません。 アンプ内部の設定変更のために、一瞬音を消しています。	—
	ジャンル連動の設定ができない 「AQUOS オーディオで聞く」モードの設定ができない	•HDMIケーブルは、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり差し込まれていますか。抜けかけていませんか。	—
	レコーダーで放送を視聴時に本機のサウンドモードがジャンル連動しない	•アクオス側の入力切換をいったん他の入力に切り換えた後、もう一度レコーダーの入力に戻してください。	—
	DVD再生時に本機のサウンドモードがジャンル連動しない	•サウンドモードは、デジタル放送のジャンル情報に連動して切り換わります。 DVD 再生では切り換わりません。	—

	こんなときに	ここをお確かめください	参照ページ
ファミリンク	レコーダー再生時に本機のサウンドモードがジャンル連動しない	・ディスクの記録方式が放送波と同じ録画方式のジャンル情報に連動して切り換わります。 それ以外の録画方式では切り換わりません。	—
	レコーダーの電源を入れても、アクオスや本機の電源が入らない	・レコーダーを再生してください。 レコーダーを再生すると、本機やアクオスの電源が入ります。	—
	レコーダーを再生したときに、アクオスの映像と本機からの音声にズレがある	・音声の遅延(ディレイ)設定を調整してください。 本機から出る音声の出力を遅らせて映像とのズレを軽減させることができます。	33
	ヘッドホンをアクオスにつないでも音が出ない	・アクオスの設定が「AQUOSで聞く」モードになっていますか。 「AQUOSオーディオで聞く」モードでは聞くことができません。	32
その他	電源ランプが赤く点滅している	・著しい大音量で聞いていませんか。 異常に暑い場所で使用していませんか。 大音量や異常に暑い場所で長時間使用すると、保護回路が働く場合があります。一度、電源プラグをコンセントから抜いて、5分以上経ってから再び電源プラグを差し込み、動作の確認をしてください。	45

よくあるお問い合わせ

■「故障かな？」と思ったら(**39〜41**ページ)も合わせてご覧ください。

	お問い合わせ	回　答	参照ページ
設置	背面を壁いっぱいに設置することはできますか？	・設置可能です。 ただし、テレビやレコーダーなどと接続するケーブル類をあらかじめ本機に接続し、その他必要なケーブル類を配置しておく必要があります。	14
	部屋のコーナーに設置することはできますか？		
接続	CDプレーヤーやカセットデッキなどを接続することはできますか？	・接続できます。 「HDMI端子のない機器(テレビやDVDプレーヤーなど)を接続する」をご覧ください。	17
	アナログ入力はできますか？		
	外部スピーカーを接続することはできますか？	・外部スピーカーを接続することはできません。	—
	外部アンプを接続して本機のスピーカーから音を出すことはできますか？	・外部アンプを接続することはできません。	—
	ヘッドホンを接続することはできますか？	・ヘッドホンを接続することはできません。	—
	地デジ非対応テレビでも接続できますか？	・接続できます。 ただし、ファミリンクによる連動動作をすることはできません。 接続や設定については、各機器の取扱説明書もご覧ください。	17
	ファミリンク非対応テレビでも接続できますか？		
	他社のテレビと接続できますか？ (他社のテレビは使用できますか？)		
	他社のレコーダーと接続できますか？ (他社のレコーダーは使用できますか？)		
	HDMIによるコントロール機能に対応した他のオーディオ機器を接続することはできますか？	・本機およびアクオスのどちらにも接続しないでください。 ファミリンクによる正常な連動動作ができなくなります。	—
ファミリンク	ファミリンクを使う場合に、特別に設定することはありますか？	・アクオス側での設定が必要です。 「ジャンル連動」を「する」に設定すると共に「ファミリンク機能選択」で「AQUOS オーディオで聞く」モードに設定する必要があります。	30〜32
	本機からアクオスの音声を聞くにはどうすればいいですか？		
	サウンドモードが自動で切り換わるようにするにはどうすればできますか？		
	アクオスの電源を入れてから本機の電源が入って音声が出るまでに十数秒かかるが不良では？	・不良や故障ではありません。 接続しているHDMI機器の認証などにある程度の時間がかかります。	—
	アクオスの電源を入れると本機の電源も入りますか？	・ファミリンク対応のアクオスを接続し、アクオスの設定を「ファミリンク機能選択」で「AQUOSオーディオで聞く」モードに設定していれば、アクオスに連動して入ります。	32
	アクオスの電源を切ると本機の電源も切れますか？	・ファミリンク対応のアクオスを接続していれば、アクオスに連動して切れます。	—
	二ヶ国語放送の音声を切り換えるには？	・アクオスリモコンフタ内の「音声切換」ボタンで操作できます。	37
	手動でそれぞれのプリセットサウンドモードに設定したあと、ジャンルオートに戻すにはどうすればいいですか？	・ジャンルオートの設定を解除しないで、手動切換の操作をした場合は、デジタル放送のテレビ番組に切り換えると、テレビ番組のジャンル情報に連動して、本機のサウンドモードが自動で切り換わります。 ・ジャンルオートの設定を解除したときは、「する」の設定に戻してください。	— 30
	ファミリンク機能で本機とアクオス、本機とレコーダーを接続している場合、レコーダーの電源を入れると本機やアクオスの電源は入りますか？	・レコーダーの電源を入れただけでは本機やアクオスの電源は入りません。 レコーダーを再生すると、本機やアクオスの電源が入ります。	—

	お問い合わせ	回　答	参照ページ
ファミリンク	レコーダーの映像を視聴するとき、ジャンル連動は使用できますか？	• 録画方式がデジタル放送と同じジャンル情報が記録されていれば、連動して切り換わります。それ以外の録画方式の場合は切り換わりません。	—
	ファミリンク機能でアクオスと連動させている場合、CDプレーヤーを接続したときに、本機だけ電源を入れて使用することはできますか？ （アクオスの電源を入れないで、CDプレーヤーやカセットデッキなどの音声を聞きたい場合はどうすればいいですか？）	• 使用できます。 この場合、電源の「入／切」や入力切換、サウンドモードの切換、音量調整などは、本機のリモコンで操作してください。なお、本機を単独で使用中にアクオスの電源を「入」にしたときは、本機とアクオスの両方から音声が出たり、アクオスで受信している音声に切り換わったりします。また、アクオスの電源を「切」にしたときは、本機の電源も連動して切れますのでご注意ください。 本機を単独でご使用中の場合は、アクオスを含め、HDMI接続している機器の操作は行わないことをお勧めします。	23
その他	アクオスと本機の両方から同時に音声を出すことはできますか？	• 一時的には可能ですが、電源の「入」や音量調整、入力切換などのファミリンクによる連動動作はしなくなります。 また、レコーダーを再生したときにアクオスと本機から出る音声にズレが生じる場合があります。	32、37
	アクオスから音声を聞くにはどうすればいいですか？	• アクオスの設定を「ファミリンク機能選択」で「AQUOSで聞く」モードに戻してください。電源の「入」や音量調整などのファミリンクによる連動動作はしなくなります。	32
	アクオスの音声をヘッドホンで聞くにはどうすればいいですか？		
	光デジタル音声ケーブルを接続して、パソコンに保存した音楽を聞くことはできますか？	• パソコン側に光デジタル音声出力端子があり、出力がPCM32kHz、44.1kHz、48kHzでしたら可能です。 詳しくは、お使いのパソコンの仕様を確認してください。	17
	サブウーハーの音量レベルは調整（変更）できますか？	• サブウーハーの音量レベルは－５～＋５の範囲で調整できます。	25
	重低音を上げたいができますか？		
	音の質を変えるにはどうすればできますか？	• サウンドモードボタンを押すことにより音質を変えることができます。	26
	左右の音量レベルは調整（変更）できますか？	• 左右の音量レベルの調整はできません。	—
	本機は 5.1ch のシステムですか？	• 5.1chサラウンドシステムではありません。 2.1chシステムですが、ドルビーバーチャルスピーカー機能により5.1chを鳴らしたときと同じような響きのある立体的な仮想サラウンドを楽しむことができるシステムです。	27
	スピーカーを増設して 5.1ch サラウンド出力はできますか？	• 5.1ch 出力はできません。	—
	電源を切ったときに、待機ランプを消灯させることはできますか？	• 電源コードが繋がっているときは、消灯させることはできません。 消すには電源コードを抜いてください。	—
	リセット方法は？	• <リセット操作>をご覧ください。	45
	購入したときの設定状態に戻すにはどうすればできますか？	• <お買い上げ時の設定状態に戻すには>をご覧ください。	45

次のページに続く

よくあるお問い合わせ(つづき)

	お問い合わせ	回　　答	参照ページ
その他	タイマー機能はありますか？	• タイマー機能はありません。	—
	キャスターはついていますか？	• キャスターはついています(4個)。	10、14
	キャスターを外すことはできますか？	• 外すことができます。 「キャスターの取り外しかた」をご覧ください。	14
	キャスターを外したときの高さはいくらですか？	• 約435mmです。	—
	1ビットデジタルアンプ搭載ですか？	• 本機には1ビットデジタルアンプは搭載していません。 デジタルアンプを搭載しています。	—
	サブウーハーはついていますか？	• サブウーハーは背面左右(上部)についています。	12
	収納部に、ガラス戸はついていますか？	• ガラス戸はついていません。	—
	棚板を外すことはできますか？	• 固定されていますので、外すことはできません。	—
	棚板の高さを調整することはできますか？	• 固定されていますので、調整することはできません。	—
	スピーカーは取り外して、レイアウトを変えることはできますか？	• スピーカーは内蔵式ですので、取り外すことはできません。	—
	テレビの転倒防止はできますか？	• 本機背面にテレビ転倒防止用部品(ネジ)取付部が左右2ヶ所にあります。 この取付部に付属のネジとワッシャーを取り付け、市販の丈夫なひもなどを使って、テレビ本体とつなぐことができます。 この転倒防止策は、テレビを前方向に倒れにくくするものです。後方向に対しては効果がありません。	12、15

エラーメッセージについて

操作を誤ったときなどに、表示部に次のような表示がでます。

エラー表示	エラーの内容
DSP-E2	・サラウンド回路の動作不良。 → 近くに雑音を発生するもの(パソコンや携帯電話など)があれば本機から離したり、それらの機器の電源プラグを別のコンセントに差し変えてみてください。(※)
DSP-E3	・サラウンド回路以外の動作不良。 → 近くに雑音を発生するもの(パソコンや携帯電話など)があれば本機から離したり、それらの機器の電源プラグを別のコンセントに差し変えてみてください。(※)
HDMI、テレビ、入力1のときに音声入力信号表示(PCM、DOLBY DIGITAL、DTS、AAC)が全消灯	・入力信号がないとき。 → 接続した機器を再生してください。 ・規格外の信号で認識することができない。 → DOLBY DIGITAL、DTS、AAC、Linear PCM以外の信号は、認識することができません。 ・デジタル音声入力端子の接続不良。 → 電源を切って、ケーブルが正しく接続されているか確かめてください。
Er-AP＊＊ (3秒間表示) ＊＊:数字を表示	・自己チェックにて異常と判断した。 → 近くに雑音を発生するもの(パソコンや携帯電話など)があれば本機から離したり、それらの機器の電源プラグを別のコンセントに差し変えてみてください。(※)
電源表示ランプ (赤色の点滅)	・著しい大音量で聞いていませんか。 ・異常に暑い場所で使用していませんか。 → 大音量や異常に暑い場所で長時間使用すると、保護回路が働く場合があります。一度、電源プラグをコンセントから抜いて、5分以上経ってから再び電源プラグを差し込み、動作の確認をしてください。(※)

(※) 電源プラグの差し込み直しや電源の入れ直しをしても同じ表示がでるときは、**49**ページの「保証とアフターサービス」をご覧のうえ、修理を依頼してください。

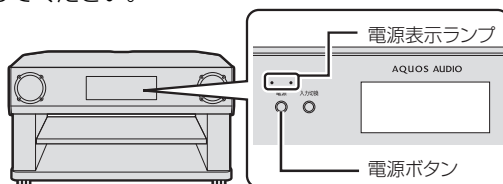
リセット操作について

異常が起きたら

この製品を使用中に、強い外来ノイズ(衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など)を受けたときや誤った操作をしたときなどに、正しく表示しなくなったり、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。このようなときは、次のようにリセット操作をしてください。

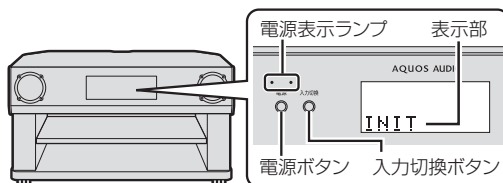
<リセット操作>

電源 **を押し続ける**(約8秒以上)

電源表示ランプが消灯するまで押し続けてください。
電源表示ランプが消灯したら、リセット操作は完了です。

<お買い上げ時の設定状態に戻すには>

1. 電源 と 入力切換 を同時に押し続ける(約8秒以上)

2. 電源ランプが消灯したら 電源 から指を離す

電源表示ランプ(緑色)が点灯し、表示部に“INIT”が約1秒表示されたあと電源が切れ、電源表示ランプ(赤色)が点灯したら完了です。
“INIT”の表示が出たら「入力切換」ボタンから指を離せます。

リセット操作をしても同じ表示がでるときは、**49**ページの「保証とアフターサービス」をご覧のうえ、修理を依頼してください。

「ソフトウェアの更新」について

- 本機の機能を改善させるソフトウェアの更新が必要となったときは、シャープホームページ内のサポートステーションでご連絡いたします。
  パソコンを使って【http://www.sharp.co.jp/support/an/index.html】にアクセスし、更新用ソフトウェア公開の有無をご確認ください。
  本機のソフトウェアバージョンに対して更新用ソフトウェアが公開されている場合には、パソコンにダウンロードした後、そのデータをSDカード(8MB～2GB)にコピーしてください。
  その後、本機のソフトウェア更新専用SDカード挿入口にSDカードを挿入して、ソフトウェアの更新を行ってください。

システムのソフトウェアバージョンの確認のしかた

- 本機のシステムのソフトウェアバージョンを確認することができます。
  ソフトウェアの更新前や更新後の確認にご利用ください。

1 メニュー **を押す**

ﾒﾆｭｰ
HDMI ｵﾝ

2 ◀▶ **で「バージョン」を選ぶ**

ﾒﾆｭｰ
ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ

3 ▼ **を押してバージョン情報を確認する**

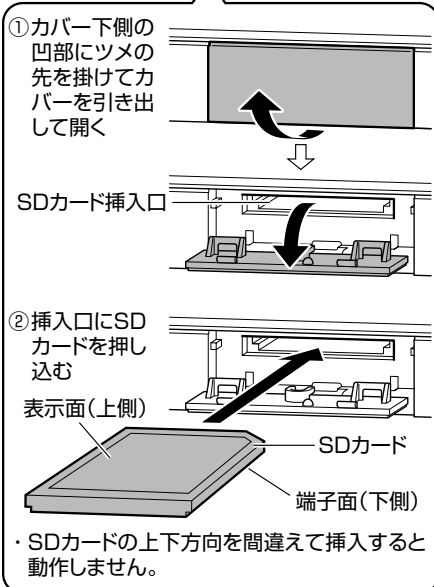
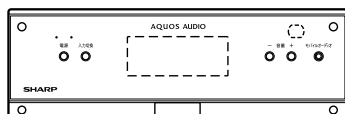
ﾒﾆｭｰ
＊.＊＊

＊印には数字が表示されます。

システムのソフトウェアの更新のしかた

- 使用するSDカードにソフトウェア更新用データ以外は書き込まないでください。
- SDカードの種類によっては本機で使用できない(読み取りできない)ものもあります。
  SDHCカードやSDIOカードなどは使用できません。
  miniSDカードやmicroSDカードは変換アダプタを装着してご使用ください。
- ソフトウェア(データ)の更新中は、SDカードを取り外したり、電源プラグを抜いたりしないでください。本機が動作しなくなる(電源が入らなくなる)恐れがあります。

1 本機の電源を「切」にし、本体正面操作部のソフトウェア更新専用SDカード挿入口にSDカードを挿入する

- 挿入口のカバーを開き、ソフトウェア更新用データを書き込んだSDカードを挿入口に押し込みます。

2 電源(本体)を押し続ける(約8秒以上)

- 電源ランプが消灯するまで押し続けてください。
  一旦電源が切れた後、自動で電源が入りソフトウェアの更新が始まり、"V−UPチュウ"の表示と共に電源表示ランプの赤色と緑色が同時に点滅します。

更新中の表示

- 更新が正常に終了すると"V−UPオワリ"の表示と共に電源ランプ(緑色)が点滅します。

更新終了時の表示

【ソフトウェア更新エラー表示/エラーの内容】

"V−UPエラー"の表示および電源ランプ(赤色)が点滅した場合や"V−UPチュウ"表示中に電源ランプ(赤色と緑色)の点滅停止(点灯または消灯)が約1分間以上続いた場合

SDカード端子の接触不良やSDカードにデータが正しく書き込まれていないことが原因でソフトウェアの更新に失敗したと考えられます。

⇒ このときは、SDカードを一旦取り出してデータの書き直し後、再度手順1からソフトウェアの更新をやり直してください。

"SDエラー"の表示が出た場合、もしくは"SDチェック"の表示が10秒以上続いた場合

ご使用のSDカードのデータを本機が読み取れず、ソフトウェアの更新に失敗したと考えられます。

⇒ このときは、他のSDカードを使って再度手順1からソフトウェアの更新をやり直してください。

3 ソフトウェアの更新が終了したら、SDカードを取り出す

- 挿入口に入れたSDカードを持って引き抜きます。
- 挿入口のカバーを閉じます。

4 電源(本体)を押し続ける(約8秒以上)

- 電源ランプが消灯するまで押し続けてください。
  電源ランプが消灯したらソフトウェアの更新は完了です。
  ファミリンク機能を使用するためには、アクオスの電源を一旦「切」にした後、「入」にしてください。

おもな仕様

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

● 本体部（アンプ／フロントスピーカー／サブウーハー内蔵）

アンプ部		
実用最大出力合計値		160W（非同時駆動、JEITA※）
実用最大出力		フロント　30W+30W／サブウーハー　100W (非同時駆動、JEITA※)
アンプ方式		デジタルアンプ
音声入力端子		デジタル外部入力：HDMI入力×2（映像入力兼用） 角形光入力×2 アナログ外部入力：2V rms=0dB(47KΩ) ピンジャック (L/R)×1 モバイルオーディオ入力：ノーマル　800mV／ハイ　400mV=0dB （アナログ）　直径3.5mmステレオミニジャック×1
音声出力端子		デジタル外部出力：HDMI出力×1（映像出力兼用、1080pまで対応）
電源		100V AC、50/60Hz
消費電力		58W （待機消費電力：0.43W／省待機電力モード時：0.22W）
フロントスピーカー部		
形式		密閉型［防磁設計］
スピーカー		フルレンジ：8cm（4Ω）×2
サブウーハー部		
形式		バスレフ型［防磁設計］
スピーカー		ウーハー：13cm（12Ω）×2
共通部		
最大外形寸法		796(幅)×414(奥行)×471(高さ)mm (JEITA※)
棚寸法（内寸）	上段	593(幅)×267(奥行)×105(高さ)mm
	下段	593(幅)×395(奥行)×105(高さ)mm
質量		約29kg
耐荷重		約60kg
棚板耐荷重	上段	約15kg
	下段	約20kg

※ 実用最大出力、最大外形寸法は、JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

● リモコン部

リモコン	
電源	DC 3V（付属単3乾電池×2個）

保証とアフターサービス よくお読みください

保証書(別添)

■ 保証書は「お買いあげ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取ってください。
保証書は内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

■ **保証期間**
お買いあげの日から1年間です。
保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

使い方や修理のご相談など

■ 修理・使い方・お手入れ・お買い物などのご相談・ご依頼、及び万一、製品による事故が発生した場合は、お買いあげの販売店、または下記窓口にお問い合わせください。

携帯・PHS OK **0120 - 001 - 251**
携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

※詳細は、裏表紙をご確認ください。

補修用性能部品の保有期間

■ 当社は、このシアターラックシステムの補修用性能部品を、製品の製造打切後、8年保有しています。
■ 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは 出張修理

■ 「故障かな?」と思ったら(**39~41**ページ)を調べてください。それでも異常があるときは、使用をやめて、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店にご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容

- 品　　名:シアターラックシステム
- 形　　名:AN-AR310
- お買いあげ日(年月日)
- 故障の状況(できるだけ具体的に)
- ご　住　所(付近の目印も合わせてお知らせください。)
- お　名　前
- 電話番号
- ご訪問希望日

便利メモ

お客様へ…
お買いあげ日・販売店名を記入されると便利です。

お買いあげ日	販売店名
年　月　日	電話(　　)　　—

保証期間中

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できるときには、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

長年ご使用の機器の点検を!

このような症状はありませんか?

- 電源コードやプラグが異常に熱い
- コゲくさい臭いがする
- 電源コードに深いキズや変形がある
- その他の異常や故障がある

ご使用中止

故障や事故防止のため、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。なお、点検・修理に要する費用は、販売店にご相談ください。

用語の解説

AAC（Advanced Audio Coding）
音声圧縮方式の1つで国際的な標準規格です。地上デジタル/BSデジタル/CSデジタル放送の映像圧縮方式である「MPEG-2」に採用されています。MPEG-1に採用されている音声圧縮方式「MP3」より、1.4倍ほど圧縮効率が高くなっています。

DOLBY DIGITAL
劇場向けデジタル音声システムの1つで、DVDの標準音声フォーマットとして採用されています。高品質なサウンドを実現しています。

DTS
DTS Inc.が開発した、劇場向けデジタル音声システムの1つです。臨場感のあるサラウンドを実現します。

HDMI（High Definition Multimedia Interface）
ハイビジョン映像信号、マルチチャンネルオーディオ信号、双方向伝送対応のコントロール信号を1本のケーブルで接続できるデジタルAVインターフェースです。デジタル信号を圧縮せずに転送するので、高品位な画質・音質をシンプルな接続で楽しむことができます。

PCM（Pulse Code Modulation）
アナログの音声信号をデジタル信号に変換する方式の1つです。アナログ信号を圧縮せずに、デジタルでコード化します。この方式で変換した信号をPCM信号といいます。音楽CDやDVDオーディオなどに使用されています。

デコーダー
DOLBY DIGITALやDTSで圧縮された音声を復元して元の音声に戻す装置です。

ドルビーバーチャルスピーカー（Dolby Virtual Speaker）
2chの音声を信号処理により広がりのある音声に拡張します。音楽CDや古い映画などのステレオ音源も、原音を損なわず自然なサラウンドで楽しむことができます。

ドルビープロロジックII
2chの音声を信号処理により広がりのある音声に拡張します。音楽CDや古い映画などのステレオ音源も、原音を損なわず自然なサラウンドで楽しむことができます。

ファミリンク機能
ファミリンク機能とは、主にHDMI CEC（Consumer Electronics Control）を使用し、テレビやBD/DVDレコーダー、オーディオアンプを制御する機能です。
アクオスの操作に連動し、本機の電源「入/切」や音量調整、消音、音声切換などを行うことができます。

プリセットサウンドモード
最適な音質となるように、推奨するレベル値にあらかじめ調整されたサウンドモードです。
ドラマや音楽・スポーツ番組などを聞くとき、11種類のプリセットサウンドモードの中から、お好みのサウンドモードを選んで楽しむことができます。

さくいん

●英数字

●あ行

●か行

●さ行

●た行

●な行

●は行

●ま行

●ら行

エコロジークラスでいきましょう。シャープ。

シアターラックシステム AN-AR310

上手に使って、もっともっとエコロジークラス。

ファミリンク機能付アクオスの電源を切ると連動して当機の電源も自動的に切ることができます。
電源の切り忘れもなく効率的な省エネになります。

省エネ 「HDMI オート」モードに設定

当機は電源を切っても少量の電力を消費しています。
「HDMI オート」モードに設定することにより、更に効果的な省エネになります。

■ よくあるご質問などはパソコンから検索できます ▶▶▶▶

http://www.sharp.co.jp/support/

シャープ　お問い合わせ

使い方や修理のご相談など

【お客様相談センター】

0120 - 001 - 251
携帯・PHS OK
携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

■IP電話などからフリーダイヤルサービスをご利用いただけない場合は…

電話：043 - 331 - 1626	FAX：043 - 297 - 2696
〒261-8520　千葉県千葉市美浜区中瀬1-9-2	

受付時間 ●月曜～土曜：9:00～20:00 ●日曜・祝日：9:00～17:00 （年末年始を除く）

●電話番号をお確かめのうえ、お間違いのないようにおかけください。
●所在地・電話番号・受付時間などについては、変更になることがあります。
（2009.12）

シャープ株式会社

本　　　社　〒545-8522　大阪市阿倍野区長池町22番22号
AVシステム事業本部　〒329-2193　栃木県矢板市早川町174番地

Printed in Malaysia

TINSJA366WJZZ
09P12-MA-NK